

学校法人香川栄養学園 平成 27 年度事業報告書

(平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで)

目次

I. 学校法人の概要	1
1. 建学の理念・精神	1
2. 沿革	1
3. 設置学校等	2
4. 役員及び職員に関する情報	3
(1) 役員一覧	3
(2) 職員数	3
5. 理事会・評議員会 開催状況	4
(1) 理事会	4
(2) 評議員会	4
(3) 常任理事会	5
II. 事業の概要	7
1. 主な施設・設備事業概況	7
(1) 駒込キャンパスの施設・設備関係	7
(2) 坂戸キャンパスの施設・設備関係	7
(3) 若葉寮の施設・設備関係	7
(4) その他	7
(5) 補助金事業等	8
2. 教育研究の概要	9
(1) 教育研究上の基本となる組織に関する情報	9
(2) 教員組織	9
(3) 学生に関する情報	10
(4) 教育課程に関する情報	13
(5) 学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準に関する情報	16
(6) 学習環境に関する情報	26
(7) 学生納付金に関する情報	30
(8) 学生支援と奨学金に関する情報	31
(9) 主な教学関係事業の概況	37
(10) 研究の概況	39
3. 当該年度のその他の事業の概要	40
4. 特長ある取り組みの概要	44
(1) 社会貢献・連携活動の概要	44
(2) 生涯学習	46
(3) 国際交流の概要	47
(4) 付帯事業部の概要	48
(5) 事業本部の概要	50
III. 財務の概要	52
IV. 財務比率	57

1. 学校法人の概要

1. 建学の理念・精神

学校法人香川栄養学園の建学の理念は、「健康の輪を広げる」こと、建学の精神は、「食により人間の健康の維持・改善を図る」ことです。

学園創立者の香川昇三・綾は、当時蔓延していた脚気が胚芽米で容易に治療・予防できることに感動し、真の医者には病人を診るよりも病人を出さないことに務めるべきだと考え、1933（昭和8）年に自宅で『家庭食養研究会』を開いて栄養学の普及活動を始めました。

2. 沿革

昭和の初め、東京大学の医学部で脚気の研究をしていた医師の香川昇三と綾は、薬ではどうしても治らない脚気の患者に胚芽米を与えることにより脚気が劇的に治療することから、人間の健康に対する食の重要性を強く認識し「医師のやるべき仕事は、病人を治す前に病人を出さないことであり、このためには正しい食生活が最も重要なことである。」という確固たる信念に基づいて、昭和8年現在の文京区本駒込の自宅に家庭食養研究会を発足しました。

家庭食養研究会は塾のようなものであり、大学の先生の妻女、近所の主婦など家庭の食事を担当する人々を対象とし、最新の栄養学の知識やその実践方法についての講義や実習を行っていました。講師には、香川昇三・綾夫妻の他にも東京大学の先生方が何人も参加し、また栄養学の実践には欠くことのできない調理技術には、一流のホテルのシェフや高級料亭の板前が本格的な指導を行っていました。そしてこの家庭食養研究会の講義録が昭和10年に月刊誌「栄養と料理」となり、現在なお80年以上の伝統をもって女子栄養大学出版部より継続発行されております。

家庭食養研究会の究極の目的は、「食により人間の健康の維持・改善を図る」であり、理想は食事が原因となるすべての病気を社会から追放し、同時にすべての人を食事によってより健康にすることです。家庭食養研究会はこの理想の具現化のために時代とともに発展し、現在では専門学校、短期大学部、大学、大学院を擁する「食と健康」を専門とする世界でもまれな学園となりました。その建学の精神と理想は今日においても家庭食養研究会発足当時とまったく変わらないものです。

学校法人 香川栄養学園 沿革

昭和 8 年	「家庭食養研究会」発足
昭和 12 年	「家庭食養研究会」を「栄養と料理学園」に名称変更
昭和 15 年	「女子栄養学園」に改称
昭和 23 年	「財団法人香川栄養学園」を設立
昭和 25 年	「女子栄養短期大学」を設置
昭和 26 年	「学校法人香川栄養学園」に改組
昭和 34 年	「香川調理師学校」を設置
昭和 36 年	「女子栄養大学」家政学部食物栄養学科を設置 「女子栄養学園」と「香川調理師学校」を統合して「香川栄養学校」栄養士科・調理師科を設置
昭和 40 年	「女子栄養大学」家政学部を栄養学部に改組
昭和 42 年	「女子栄養大学」に栄養学部二部栄養学科を設置
昭和 44 年	「女子栄養大学」大学院栄養学研究科栄養学専攻修士課程設置
昭和 51 年	「香川栄養学校」を「香川栄養専門学校」に改組
昭和 55 年	「女子栄養大学」栄養学部に保健栄養学科を設置
平成 元年	「女子栄養大学」大学院栄養学研究科栄養学専攻博士後期課程設置
平成 3 年	「香川栄養専門学校」の調理高等課程調理師科を調理専門課程調理師科と調理高等課程調理師科に分離 製菓科は調理専門課程製菓科となる
平成 5 年	「女子栄養大学」栄養学部に文化栄養学科を設置
平成 7 年	「女子栄養大学」大学院栄養学研究科保健学専攻修士課程を設置
平成 8 年	「香川栄養専門学校」調理高等課程調理師科を廃止
平成 9 年	「女子栄養大学」大学院栄養学研究科保健学専攻に博士後期課程を設置
平成 12 年	「女子栄養短期大学」を「女子栄養大学短期大学部」に名称変更
平成 15 年	「女子栄養大学」栄養学部栄養学科実践栄養学専攻を実践栄養学科に栄養学科栄養科学専攻並びに保健栄養学科を統合し保健栄養学科に改組 同栄養学部二部栄養学科を保健栄養学科に名称変更
平成 18 年	「女子栄養大学」栄養学部文化栄養学科を食文化栄養学科に名称変更
平成 21 年	「香川栄養専門学校」調理専門課程調理マイスター科（2 年制）設置
平成 22 年	「香川栄養専門学校」栄養専門課程栄養士科を廃止 「香川栄養専門学校」を「香川調理製菓専門学校」に名称変更
平成 25 年	学園創立 80 周年

3. 設置学校等

設置学校	学長・校長名	所在地
女子栄養大学	香川 芳子	坂戸キャンパス 埼玉県坂戸市千代田三丁目 9 番 21 号
		駒込キャンパス 東京都豊島区駒込三丁目 24 番 3 号
女子栄養大学短期大学部	香川 芳子	東京都豊島区駒込三丁目 24 番 3 号
香川調理製菓専門学校	古川 瑞雄	

4. 役員及び職員に関する情報

(1) 役員一覧

(平成27年5月1日現在)

理事長	香川明夫	(女子栄養大学短期大学部教授)
副理事長	五明紀春	(女子栄養大学副学長、同短期大学部副学長)
常務理事	染谷忠彦	(学校法人香川栄養学園 広報部長)
常務理事	山根正彦	(学校法人香川栄養学園 国際交流部長)
理事	香川芳子	(女子栄養大学・女子栄養大学短期大学部学長、香川調理製菓専門学校名誉校長)
理事	廣末トシ子	(女子栄養大学短期大学部副学長)
理事	岡崎光子	(女子栄養大学 名誉教授)
理事	吉田企世子	(女子栄養大学 名誉教授、女子栄養大学香友会会長)
理事	川上浩明	(株式会社トーハン 専務取締役、管理本部長、情報戦略本部長)
理事	佐久間慶子	(女子栄養大学 名誉教授)
理事	羽淵信宏	(城西大学 大学院 経営学研究科教授)
理事	濱口敏行	(ヒゲタ醤油株式会社 代表取締役社長)
理事	藤村和男	(公益財団法人教科書研究センター 参与)
理事	山野井昭雄	(味の素株式会社 社友)
理事	井形昭弘	(名古屋学芸大学 学長)
監事	工藤誠司	(工藤特許事務所 所長)
監事	志甫圭一	(横浜簡易裁判所 司法委員)

(2) 職員数

女子栄養大学

平成27年5月1日現在(単位:人)

区分	男	女	計
本務者	26	59	85
兼務者	10	8	18
合計	36	67	103

女子栄養大学短期大学部

平成27年5月1日現在(単位:人)

区分	男	女	計
本務者	5	18	23
兼務者	10	8	18
合計	15	26	41

香川調理製菓専門学校

平成27年5月1日現在(単位:人)

区分	男	女	計
本務者のみ	4	11	15

5. 理事会・評議員会 開催状況

(1) 理事会 開催回数 4回 審議事項以下の通り

平成 27 年 5 月 26 日 (火) 出席 15 人 (うち、委任状 出席 2 人) 監事 2 人	第 1 号議案 平成 26 年度事業報告の件 第 2 号議案 平成 26 年度決算の件 第 3 号議案 中長期計画策定作業の件 第 4 号議案 役付理事人事の件 第 5 号議案 評議員人事の件 第 6 号議案 理事人事の件 第 7 号議案 その他の件 (報告事項)
平成 27 年 7 月 28 日 (火) 出席 13 人 (うち、委任状 出席 2 人) 監事 2 人	第 1 号議案 専門学校 3 教室他工事の件 第 2 号議案 坂戸 6 号館拡張工事の件 第 3 号議案 軽井沢土地売却の件 第 4 号議案 事務組織変更に伴う規程等改定の件 第 5 号議案 その他の件 (報告事項)
平成 28 年 2 月 2 日 (火) 出席 13 人 (うち、委任状 出席 1 人) 監事 2 人	第 1 号議案 女子栄養大学長及び女子栄養大学短期大学部学 長選考に関する件 第 2 号議案 「学校法人香川栄養学園学園長規程」改定に関 する件 第 3 号議案 その他の件 (報告事項)
平成 28 年 3 月 29 日 (火) 出席 13 人 (うち、委任状 出席 1 人) 監事 2 人	第 1 号議案 平成 27 年度基本金組入計画の件 第 2 号議案 中期計画の件 第 3 号議案 平成 28 年度事業計画の件 第 4 号議案 平成 28 年度予算の件 第 5 号議案 平成 29 年度新入生学納金等の件 第 6 号議案 女子栄養大学栄養学部食文化栄養学科の定員 の件 第 7 号議案 短期大学部若葉駅前グラウンドの件 第 8 号議案 評議員人事の件 第 9 号議案 学園長人事の件 第 10 号議案 学園長報酬の件 第 11 号議案 その他の件 (報告事項)

(2) 評議員会 開催回数 3回 審議事項以下の通り

平成 27 年 5 月 26 日 (火) 出席 32 人 (うち、委任状 出席 7 人) 監事 2 人	第 1 号議案 平成 26 年度事業報告の件 第 2 号議案 平成 26 年度決算の件 第 3 号議案 中長期計画策定作業の件 第 4 号議案 理事人事の件 第 5 号議案 監事人事の件 第 6 号議案 その他の件 (報告事項)
平成 27 年 7 月 28 日 (火) 出席 32 人 (うち、委任状 出席 9 人) 監事 2 人	第 1 号議案 専門学校 3 教室他工事の件 第 2 号議案 坂戸 6 号館拡張工事の件 第 3 号議案 軽井沢土地売却の件 第 4 号議案 事務組織変更に伴う規程等改定の件 第 5 号議案 その他の件 (報告事項)

平成 28 年 3 月 29 日 (火) 出席 32 人(うち、委任状出席 5 人) 監事 2 人	第 1 号議案 平成 27 年度基本金組入計画の件 第 2 号議案 中期計画の件 第 3 号議案 平成 28 年度事業計画の件 第 4 号議案 平成 28 年度予算の件 第 5 号議案 平成 29 年度新入生学納金等の件 第 6 号議案 女子栄養大学栄養学部食文化栄養学科の定員増の件 第 7 号議案 短期大学部若葉駅前グラウンドの件 第 8 号議案 理事人事の件 第 9 号議案 その他の件 (報告事項)
--	---

(3) 常任理事会 開催回数 11 回 審議事項以下の通り

平成 27 年 4 月 28 日 (火) 出席 10 人 (うち、監事 2 人)	第 1 号議案 女子栄養大学名誉教授称号授与の件 第 2 号議案 日本私立学校振興・共済事業団からの借入金に係る連帯保証人の変更の件 第 3 号議案 日本私立大学協会評議員選定の件 第 4 号議案 その他の件
平成 27 年 5 月 19 日 (火) 出席 10 人 (うち、監事 2 人)	第 1 号議案 理事会・評議員会 (平成 27 年 5 月 26 日開催) 付議事項の件 第 2 号議案 退任役員慰労金の件 第 3 号議案 退任役員・評議員への記念品贈呈の件 第 4 号議案 平成 27 年度学内理事等期末手当及び学外役員報酬の件 第 5 号議案 その他の件
平成 27 年 6 月 30 日 (火) 出席 10 人 (うち、監事 2 人)	第 1 号議案 事務組織変更に伴う規程等改定の件 第 2 号議案 学校法人香川栄養学園「綾栄会」規約の件 第 3 号議案 大学院修士課程における学園内進学者の入学金減額の件 第 4 号議案 学園所有「軽井沢追分遊休地」売却の件 第 5 号議案 坂戸校舎 6 号館 1 階事務室拡張工事の件 第 6 号議案 専門学校定員増に伴う教室整備の件 第 7 号議案 出版部への資金貸出と業績改善策の件 第 8 号議案 その他の件
平成 27 年 7 月 21 日 (火) 出席 8 人 (うち、監事 2 人)	第 1 号議案 臨時理事会・評議員会付議事項の件 第 2 号議案 教員評価に関する内規 (案) の件 第 3 号議案 香川芳子学術奨励賞受賞者の件 第 4 号議案 公的研究費の管理・監査に関する規則等改正の件 第 5 号議案 その他の件
平成 27 年 9 月 15 日 (火) 出席 10 人 (うち、監事 2 人)	第 1 号議案 栄養教諭専修免許課程の認定申請の件 第 2 号議案 坂戸 6 号館拡張工事 (業務委託契約) の件 第 3 号議案 軽井沢土地売却 (売買契約) の件 第 4 号議案 「女子栄養大学 海外実習の実施に関する覚書」改訂の件 第 5 号議案 「女子栄養大学 名誉教授称号授与規程」の改訂の件 第 6 号議案 その他の件

平成 27 年 10 月 27 日(火) 出席 10 人(うち、監事 2 人)	
第 1 号議案	平成 28(2016)年度予算編成方針の件
第 2 号議案	女子栄養大学名誉教授称号授与の件
第 3 号議案	「臨時職員時間給」改定の件
第 4 号議案	「職業実践力育成プログラム(BP)」申請の件
第 5 号議案	専門学校 3 教室他工事の件
第 6 号議案	公用車導入の件
第 7 号議案	その他の件
平成 27 年 11 月 24 日(火) 出席 10 人(うち、監事 2 人)	
第 1 号議案	平成 28 年度在学生学納金(新入生を除く)の件
第 2 号議案	女子栄養大学名誉教授称号授与の件
第 3 号議案	平成 27 年度役員・期末手当等の件
第 4 号議案	坂戸校舎 6 号館拡張工事の件
第 5 号議案	その他の件
平成 27 年 12 月 22 日(火) 出席 10 人(うち、監事 2 人)	
第 1 号議案	重要人事及び学長選考委員会設置の件
第 2 号議案	平成 28 年度入試東日本大震災罹災者に対する学費減免の件
第 3 号議案	女子栄養大学若葉寮改修工事の件
第 4 号議案	日本私立学校振興・共済事業団借入担保物件差し替えの件
第 5 号議案	「学校法人香川栄養学園特定個人情報取扱規程」制定の件
第 6 号議案	「学校法人香川栄養学園職員就業規則」、「学校法人香川栄養学園出版部職員就業規則」改定の件
第 7 号議案	「学校法人香川栄養学園情報保護管理規程」改定の件
第 8 号議案	その他の件
第 9 号議案	非常勤講師、非常勤助手、非常勤実習講師、TA 給与額(単価)基準の件
第 10 号議案	「香川栄養学園 災害救助法適用地域被害者に対する学費減免に関する規定」改定の件
平成 28 年 1 月 19 日(火) 出席 10 人(うち、監事 2 人)	
第 1 号議案	臨時理事会付議事項の件
第 2 号議案	常総市水害の被災学生への見舞金支給及び学納金減免の件
第 3 号議案	ソウル国立大学との「学生交流合意書」及び「学生受入れガイドライン」の件
第 4 号議案	その他の件
平成 28 年 2 月 23 日(火) 出席 10 人(うち、監事 2 人)	
第 1 号議案	学長退職金の件
第 2 号議案	学園長処遇の件
第 3 号議案	平成 28 年度学内理事報酬・期末手当の件
第 4 号議案	その他の件
平成 28 年 3 月 22 日(火) 出席 10 人(うち、監事 2 人)	
第 1 号議案	理事会・評議員会(平成 28 年 3 月 29 日)付議事項の件
第 2 号議案	学長退任に伴う退職金支給の件
第 3 号議案	退任役員慰労金の件
第 4 号議案	平成 28 年度学内理事報酬・期末手当の件
第 5 号議案	その他の件

II. 事業の概要

1. 主な施設・設備事業概況

(1) 駒込キャンパスの施設・設備関係

3号館地下1階フードサプライ用冷蔵庫4台、冷凍庫1台を設置経年及び省エネから更新致しました。また、設置後約20年経過している室外大規模冷凍・冷蔵庫の全量に亘るオーバーホール部品交換を実施致しました。

専門学校調理師科定員40名増加に伴い4号館2階旧出版事務室あとに普通教室を3教室、講師控室並びに校長・副校長室を新設致しました。また、上記工事により出版部事務室を5号館5階から7階部分に移設を行いました。

設置後15年以上経過している1号館情報処理実習室のCPU実習室、3号館3505教室、被服実習室、小講堂、準備室、4号館第4調理実習室用のGHP(ガスエンジン・ヒートポンプ・エアコン)室内機17台、室外機5台を省エネ、危険防止から更新致しました。

現状大教室としては小講堂のみで学生説明会等々開催するには日程調整に時間が掛かるなど不便なことから、短大部3号館4階3402教室と3403教室の間仕切りを可動域として一体化して使用することを可能としました。

湧水、雨水による床上浸水が度々発生している4号館地下1階デモンストレーションルーム、調理準備室の防水工事を行いました。

5号館5階松柏軒レストランホール用GHPは設置後18年が経過し冷暖房の効きが大きく低下しており、省エネ、危険防止から更新致しました。

(2) 坂戸キャンパスの施設・設備関係

2号館1階から4階まで用のGHPの内設置後14年以上経過している室内機37台、室外機8台を省エネ、危険防止から更新致しました。

6号館3階6302教室(旧LL教室)仕様をグループレイアウト型、可動式グループワーク形式用机・椅子の設置、グループ用PCの設置、壁面をホワイトボードにし映写可能とするなど全面改修工事を行いました。

坂戸校舎全館に亘る普通教室27教室、12号館3実習室用液晶プロジェクターは設置後9年から11年以上経過し画像の鮮明、色彩の低下、使い勝手の悪さから更新を行いました。

6号館1階坂戸就職課事務室が手狭の為、相談学生を長らく待たせたり、立ったままで対応したりするなどから、1階部分の増築工事を行い、坂戸就職課事務室を拡張して学生サービスの満足度アップを図りました。

(3) 若葉寮の施設・設備関係

建築後約15年6か月が経過したことから全屋上防水工事、全バルコニー防水工事、外部シーリング関係全て打替え更新、全量外壁改修工事、塗装工事等々実施致しました。

(4) その他

前学長が学園長に就任、理事長が学長兼任することに伴い、建学の精神を刻んだ「記念碑」を駒込キャンパス、坂戸キャンパスそれぞれに建立致しました。

費用、改修時期等は以下の通りです。

(単位：千円)

事項	事業内容	事業費	実施時期
(1) 駒込キャンパス 改修工事等	フードサプライ冷蔵庫4台、冷凍庫1台、 室外冷凍冷蔵庫機器更新	7,808	平成27年6月
	専門学校3教室並びに講師控室等新設、 出版部移設工事	31,592	平成27年8月
	1・3,4号館GHP室内機17台、室外機5 台更新	35,000	平成27年9月
	3号館3402教室、3403教室一体化改修 工事	12,096	平成28年3月
	4号館地下1階デモ室、準備室等湧水、 雨水漏れ防止工事	7,560	平成28年3月
	松柏軒レストラン部分GHP室内外機各4 台更新	10,800	平成28年3月
	駒込校舎 計	104,856	
(2) 坂戸キャンパス 改修工事等	2号館GHP室内機37台、室外機8台更 新	54,000	平成27年5月
	6号館LL教室全面改修工事	14,968	平成27年10月
	全館27教室、3実習室液晶プロジェク ター更新	20,088	平成27年10月
	6号館1階増築工事(坂戸就職課事務室)	70,615	平成28年3月
	坂戸校舎 計	159,671	
(3) 若葉寮 改修工事等	ベランダ、外壁、屋上屋根等々防水他全 面改修工事	58,050	平成28年3月
	若葉寮 計	58,050	
(4)その他	駒込・坂戸両キャンパス内記念碑建立	9,531	平成28年3月
	その他 計	9,531	
	事業費 合計	332,108	

(5) 補助金事業等

教育研究財源としての補助金の確保について、私立大学等経常費補助金（一般補助及び特別補助）として、法人全体で297,114千円（平成26年度比39,306千円の増。内訳は大学で32,710千円増、短大で6,596千円）となった。増額の要因としては、大学・短大とも私立大学等改革総合支援事業に採択されたことのほか、大学の教研費の支出比率が増えたことが挙げられる。

2. 教育研究の概要

(1) 教育研究上の基本となる組織に関する情報

教育研究上の基本組織

【女子栄養大学】	大学院 栄養学研究科	栄養学専攻	修士課程
			博士後期課程
	栄養学部	保健学専攻	修士課程
			博士後期課程
		実践栄養学科	
	栄養学二部 (イブニングコース)	保健栄養学科	栄養科学専攻
		保健養護専攻	
【女子栄養大学 短期大学部】		食物栄養学科	
【香川調理製菓 専門学校】		調理専門課程	調理マイスター科
			調理師科
			製菓科

(2) 教員組織

教員数(本務者男女別、職別人数)(平成27年5月1日現在 単位:人)

【女子栄養大学(学長を含む)】

学 長	男	0	1	76
	女	1		
副学長	男	2	2	
	女	0		
教 授	男	15	37	
	女	22		
准教授	男	5	18	
	女	13		
講 師	男	1	11	
	女	10		
助 教	男	0	7	
	女	7		

【女子栄養大学短期大学部】

学 長	男	0	0	17
	女	0		
副学長	男	0	1	
	女	1		
教 授	男	4	8	
	女	4		
准教授	男	1	5	
	女	4		
講 師	男	0	2	
	女	2		
助 教	男	0	0	
	女	0		
助 手	男	0	1	
	女	1		

【香川調理製菓専門学校】

校 長	男	1	1	13
	女	0		
副校長	男	1	1	
	女	0		
教 授	男	2	3	
	女	1		
助教授	男	2	3	
	女	1		
講 師	男	4	4	
	女	0		
助 手	男	0	1	
	女	1		

(3) 学生に関する情報

受け入れ方針

アドミッションポリシー

【女子栄養大学】

大学院	栄養学研究科	<p>栄養学研究科は、食と健康を統合する研究者および高度専門職業人の養成を目指し、人々の健康の増進と幸福な社会の実現に寄与することを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの課題意識、問題関心が明確である人 ・大学院の研究等を進めるのに、必要な学力を有している人
	(栄養学専攻)	<p>栄養・食に関連した科学的根拠の探求、およびそれを活用した実践への熱意を有する人</p>
	(保健学専攻)	<p>地域保健、学校保健、バイオ・メディカルの基礎的研究に深い関心を持ち、ヘルス・プロモーションに意欲を有する人</p>

栄養学部	実践栄養学科	食・健康に好奇心や探求心を持ち、食事の調製・提供のための知識や技術を身に付け、傷病者の栄養指導など、管理栄養士として栄養学の知識を実践したい人 豊かな人間性と感受性を持ち、生命の大切さを深く理解し、人々の健康と社会の福祉のために役立ちたいという情熱に燃えている人
	保健栄養学科 (栄養科学専攻)	栄養に詳しい臨床検査技師として、保健・医療の場で活躍したい人 食育に詳しい家庭科教諭として、教育の場で活躍したい人 運動(スポーツ)に詳しい栄養士として、健康支援活動の場で活躍したい人 食品の開発や安全管理に興味を持ち、企業活動の場で活躍したい人
	保健栄養学科 (保健養護専攻)	養護教諭になりたいという強い意志を持つ人 子ども達を愛し、養護教諭という職を愛する人 子ども達の心と身体の健康を守り育てる意欲のある人
	食文化栄養学科	栄養、調理、料理など、食べることや作ることに興味を持ち、食文化の世界に魅力を感じている人 「食生活と食文化のスペシャリスト」としてフードビジネスや食のメディアの世界で実力を持って活躍したい人
栄養学部二部	保健栄養学科	栄養学の学びを通じて、自身の可能性を広げたい人 食と健康についての専門的知識を身に付け、社会貢献や仕事に役立てたい人 食と健康についての正しい知識を身に付け、食べることを通じて自分や周囲を健康にしたい人 栄養学の知識をリカレント(再学習)し仕事に役立てたい人 食と健康に強い家庭科教諭を目指したい人

【女子栄養大学短期大学部】

食物栄養学科	食・健康に好奇心や興味を持ち、食事の調製・提供のための知識や技術を身に付け、栄養学の知識を実践する人 食産業や食文化及び健康分野等で「食生活のスペシャリスト」として活躍したい人 学業で得た知識を更に深く学び探究する意欲のある人 高等学校等できちんと学び、基礎学力を身につけた人
--------	---

平成 27 年度の入試広報活動

平成 27 年度募集活動では、国家試験合格率、教員採用試験合格率、また各学科の就職状況を含めた就職率を広報媒体等により広報しました。また、専門性の高い教育内容、各種イベント(オープンキャンパス、入試等)についても、高校生、保護者のみならず高校教員にも広く広報を行い学生の定員確保に努めました。

平成 27 年度の志願者数は、栄養学部で前年比 98.4%、栄養学部二部で 96.8%、短期大学部で 75.5% となりました。栄養学部では、栄養科学専攻では 109.3%と志願者増となるも、食文化栄養学科では 78.4%と 20%以上の落込みとなりました。また、短期大学部においても、前年の 3/4 の志願者数となり、次年度への募集に向け、オープンキャンパスでのイベント数の拡大、またカリキュラムについてもフィールド分けから、より明確に進路のイメージを図れるようにしていき募集強化を行っていきます。

入試広報課員のほか、学部卒業生も有効的に活用し、進学(会場)ガイダンス、高校内ガイダンスを年間約 350 回実施しました。高校内ガイダンスについては、大学案内のみならず、分野別、職業別、入試対策講座などの講座を行い、多くの高校生に多様な角度から募集活動を行いました。

オープンキャンパスを年間 13 回実施し、参加者数計で 8,275 人となり前年比 108.2%の集客を達成しました。各開催前への受験生応援サイト、DM、SNS による告知案内、またイベント内容も一部見直しも図り、増加する結果となりました。

今年度より新規立ち上げを行った受験生応援サイトから大学案内を強化しました。トップビジュアルも随時更新を行い、サイトへ訪れるタイミングによって新規情報の告知を行いました。また、平成 29 年度募集より定員増となる食文化栄養学科のマガジン誌を発行するなど、今後、大学の認知度を上げるための媒体誌を継続的に発行していきます。

5 月に開催された高校教員とメディア関係者を対象とした大学説明会では、参加者計 169 人となり前年比 125.2%を達成しました。多くの高校教員に、本学の教育実績、学びの内容、施設などについて、十分なご理解をいただきました。

入学者の数、収容定員、在学する学生の数 (平成 27 年 5 月 1 日現在 単位：人)

女子栄養大学 大学院

研究科	専攻	課程	学年	入学定員	入学者	収容定員	在学者	合計
栄養学研究科	栄養学専攻	修士課程	1	10	11	20	12	28
			2	10	-		16	
		博士後期課程	1	3	2	9	5	8
			2	3	-		2	
			3	3	-		1	
		保健学専攻	修士課程	1	10	4	20	4
	2			10	-	5		
	博士後期課程		1	3	2	9	2	5
			2	3	-		0	
			3	3	-		3	

女子栄養大学

学部	学科	学年	入学定員 (3年次編入)	入学者	収容定員	在学者	合計
栄養学部	実践栄養学科	1	200	226	840	226	922
		2	200	-		225	
		3	200(20)	(20)		234	
		4	200(20)	-		237	
	保健栄養学科	1	150	169	600	169	682
		2	150	-		176	
		3	150	-		174	
		4	150	-		163	
	食文化栄養学科	1	67	89	308	89	398
		2	67	-		90	
		3	67(20)	(18)		108	
		4	67(20)	-		111	
栄養学部 二部	保健栄養学科	1	20	12	120	12	89
		2	20	-		10	
		3	20(20)	(15)		31	
		4	20(20)	-		36	

女子栄養大学短期大学部

学科	学年	入学定員	入学者	収容定員	在学者	合計
食物栄養学科	1	160	172	320	172	350
	2	160	-		178	

香川調理製菓専門学校

学科	学年	入学定員	入学者	収容定員	在学者	合計
調理マイスター科	1	40	32	80	32	64
	2	40	-		32	
調理師科	1	80	129	80	129	129
製菓科	1	120	124	120	*124	124

*には学園内留学者含む

卒業者の数、進学者、就職者の数（平成27年5月1日現在 単位：人）

女子栄養大学

学部	学科	卒業者	進学者	就職者
栄養学部	実践栄養学科	234	5	214
	保健栄養学科	165	7	148
	食文化栄養学科	103	3	94
栄養学部二部	保健栄養学科	24	2	18

女子栄養大学短期大学部

学科	卒業者	進学者	就職者
食物栄養学科	170	27	128

香川調理製菓専門学校

	学科	卒業者	進学者	就職者
調理専門課程	調理マイスター科	45	2	42
	調理師科	107	82	23
	製菓科	127	11	108

(4) 教育課程に関する情報

カリキュラム

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

【大学院栄養学研究科】

学生自身の研究課題を深めると同時に、栄養学・保健学の幅広い研究領域の視野を得て、その中で自身の研究課題を位置づけ、研究の実施が可能となるよう、以下のカリキュラム編成を行っています。

- 1 修士課程にあっては、個別の研究課題に取り組む前に、まず栄養学・保健学の学際性・多様性に触れる目的で、入学時に専攻毎に全専任教員による「総合講義」を開設。
- 2 その上で、さらに多様な知見を深める目的で多領域の特論科目を開設。栄養学専攻では、基礎栄養科学領域、実践栄養科学領域、生体科学領域、食文化科学領域、食物科学領域の特論

科目を、保健学専攻では、健康科学領域、臨床病態生化学領域、実践学校保健学領域の特論科目を開設。

- 3 研究を進めるための方法論の修得を目的として、共通領域として研究手法に係る科目を開設。
- 4 栄養学・保健学の学際性・多様性の中で、自身の研究課題を位置づけ、先行研究をふまえ、その意義と知見を他者に伝え議論するスキルを修得するための「総合演習」(学生全員によるセミナー)を開設。
- 5 修士課程、博士後期課程ともに、学生自身の研究課題や実践課題を深めるため、指導教員による個別指導体制を充実すると同時に、多領域の教員から指導を受けられる機会(全教員参加の下での中間報告会等)を設置。

【栄養学部】

専門的能力を高めるために、学科ごとに専門分野の選択科目を配置し、実験・実習科目を重視しています。分野ごとに基礎から応用へ、また専門分野間で関連付けながら学習ができるよう、教育課程を編成しています。

【栄養学部二部】

- 1 幅広い教養と専門的知識を学ぶため、基礎・教養科目、必修の専門科目を1・2年次に配置する。
- 2 選択の専門科目は、3・4年次を中心に配置し、11分野にも及ぶ多彩な教科から、学びたい分野を選んで学習できるよう編成する。
- 3 栄養学のより専門的な内容に加え、高度専門科目も配置しており、教職教科分野の科目では、生活に直結する内容も充実させる。
- 4 授業は、学理や知識を学ぶ講義だけでなく、教育効果をあげるため科学的な実験や調理などの実習、グループワークを行う演習等、実践を重視した少人数教育を実施する。

【短期大学部】

栄養学の知識・理論の学習を通して自ら正しい食生活を実践すると共に、社会において食を介して人の健康を守ることができる優れた栄養士の養成を図り、食事・栄養改善を通じて健康増進をなすための技術、食事・料理の調製・提供に必要な実際的な技術を身につけることを目的としてカリキュラムを編成しています。

- 1 広範で多様な基礎的知識の獲得のため基礎・教養科目、自由選択科目を設置。
- 2 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶため、栄養士必修科目、専門科目および教職必修科目を設置。
- 3 学生が幅広く関心のある科目を履修できることを目的として、専門科目、基礎・教養科目に一般コース・キャリアコースの教育目的に合わせたコース別科目を設置。
- 4 栄養学を社会に還元し、健康を維持するための基礎技術・能力を育成するため多様な実験・実習科目を設置。

授業科目一覧

大学院、各学部・学科・専攻の授業科目及び授業内容は、シラバスに掲載されているとおり、教育課程の編成方針に即して設けられています。詳細は以下のとおりです。

栄養学部・栄養学部二部

【実践栄養学科】

基礎教養科目群(人文科学、社会科学、自然科学、外国語)、専門基礎科目群(理化学生物学、社会環境と健康、人体の構造と機能・疾病の成り立ち、食べ物と健康)、専門科目群(基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論、総合演習、臨地実習)、6系科目群(臨床栄養、福祉栄養、地域栄養教育、スポーツ栄養、給食マネジメント、食品開発)、栄養教諭科目群、総合分野科目群。

【保健栄養学科 栄養科学専攻】

基礎・教養科目、専門基礎科目、専門共通科目、専門科目（臨床検査学コース、家庭科教職コース、健康スポーツ栄養コース、食品安全管理コース）、総合分野。

【保健栄養学科 保健養護専攻】

基礎・教養科目（人文科学、社会科学、自然科学、外国語）、専門基礎科目（医学基礎）、専門科目（栄養・食生活、保健衛生・情報、教職・教科、総合）、教職科目（教職）。

【食文化栄養学科】

基礎・教養科目（人文科学、社会科学、自然科学、外国語）、専門基礎科目（栄養学・保健学、食品学、文化国際論、調理学、情報論）、共通専門科目群（健康づくり論、応用食品学、食文化論、専門調理学、フードマネジメント論、デザイン・メディア論）、コース専門科目群（フードコーディネーターコース、フードプロデュースコース、フードカルチャー・クリエイティブコース）総合科目群、学科特論科目、共通特論科目。

【食文化栄養学科】

基礎・教養科目（人文科学、社会科学、自然科学、外国語）、専門基礎科目（栄養学・保健学、食品学、文化論基礎、調理学、情報論基礎、表現論基礎、食生態学、経営論基礎）、共通専門科目群（健康づくり論、応用食品学、食文化論、専門調理学、社会・経済論、食マネジメント論、デザイン論、情報分析）、コース専門科目群（フードサービス・レストラン企画、商品開発・流通、食を通じた地域振興）総合科目群、特論科目、共通特論科目。

【栄養学部二部 保健栄養学科】

基礎・教養科目（人文科学、社会科学、自然科学、外国語）、専門科目（栄養・基礎、実践栄養、栄養・臨床、地域・管理栄養、食品、調理、衛生、身体・医学、保健、食情報、高度専門科目、総合、教職教科、リカレント1、リカレント2、教職科目）。

大学院栄養学研究科

【栄養学専攻修士課程】

基礎栄養科学領域（母子栄養学、高齢期栄養学、運動栄養学、基礎栄養学、栄養生理学、臨床栄養学）、実践栄養科学領域（臨床栄養管理学、医療栄養学、給食経営学、栄養管理学、食教育学、栄養疫学）、生体科学領域（加齢生化学、分子栄養学、生化学、生理学）、食文化科学領域（食文化人類学、食心理学、国際栄養学、国際開発論、食環境学、生活教育学、食環境教育学）、食物科学領域（食品学、食品機能学、食品衛生学、フードシステム論、調理科学、調理・食生活学）、共通領域（栄養学研究法、実践栄養学実習、実践栄養学専門演習、栄養学共通特論）、必修科目（栄養学総合講義、栄養学総合演習、栄養学専門演習、栄養学専門実験・実習）。

【栄養学専攻博士後期課程】

栄養学（固有）領域（栄養生理学、実践栄養学、給食経営・栄養管理学、地域栄養学、基礎栄養学）、生体科学領域（臨床代謝学、医化学、生化学、生理学）、食物科学領域（食品機能学、食品栄養学、食品・環境安全管理学、調理機能学）。

【保健学専攻修士課程】

健康科学領域（ヘルス・プロモーション論、成人・高齢者保健学、環境保健学、地域保健学、産業保健学、国際保健学、保健社会学、保健情報科学、実践運動学）、臨床病態生化学領域（スポーツ生理学、統合生理医科学、臨床生化学、微生物学・感染制御学、免疫学、病理細胞学、臨床血液学）、実践学校保健学領域（学校保健学、学校メンタルヘルス論、性教育学、発育健康学、小児保健学、養護教諭論、学校保健看護学、看護教育学）、共通領域（保健学研究法、保健学共通特論）、必修科目（保健学総合講義、保健学総合演習、演習、実験・実習）。

【保健学専攻博士後期課程】

地域保健学領域（地域保健計画学、臨床疫学、保健情報科学、環境保健学）、臨床病態生化学領域（臨床生理学、臨床生化学、微生物学・感染制御学、免疫学）、実践学校保健学領域（発育健康学、性教育学、実践学校保健学）、必修科目（重点課題演習）。

(5) 学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準に関する情報

学修の成果に係る評価

履修方法および卒業必要単位一覧

【女子栄養大学 大学院 栄養学研究科（数字は単位数）】

専攻・課程等	修業 年限	修得可能な学位及 び資格等	必要修得 単位数	科目区分ごとの修得単位数	
				必修	選択
栄養学専攻 修士課程	2年	修士（栄養学）	30以上	20	10以上
		修士（栄養学） 中学校・高等学校 教諭専修免許状 （家庭）	40以上	20	教員の資格取得のための必修科目を含めて 20以上
保健学専攻 修士課程	2年	修士（保健学）	30以上	20	10以上
		修士（保健学） 中学校・高等学校 教諭専修免許状 （保健）	40以上	20	教員の資格取得のための必修科目を含めて 20以上
		修士（保健学） 養護教諭専修免許 状	40以上	20	教員の資格取得のための必修科目を含めて 20以上
		修士（保健学） 中学校・高等学校 教諭専修免許状 （保健）及び養護教 諭専修免許状	44以上	20	教員の資格取得のための必修科目を含めて 24以上
栄養学専攻 博士後期課程	3年	博士（栄養学）	必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査並びに最終試験に合格すること		
保健学専攻 博士後期課程	3年	博士（保健学）	所定の授業科目（3単位）を修得し、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査並びに最終試験に合格すること		

【女子栄養大学 栄養学部】

〔実践栄養学科〕平成27年度入学生

卒業要件

基礎・教養科目	人文科学分野	6単位以上	計 24単位以上
	社会科学分野	6単位以上	
	自然科学分野	6単位以上	
	外国語分野	6単位以上	
	*英語・ドイツ語・フランス語・中国語のいずれかを選択し6単位履修		
専門基礎科目	必修科目	47単位	
専門科目	必修科目	35単位	
			合計 124単位以上

管理栄養士国家試験受験資格を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野	6 単位以上	計 24 単位以上
	社会科学分野	6 単位以上	
	自然科学分野	6 単位以上	
	外国語分野	6 単位以上	
	*英語・ドイツ語・フランス語・中国語のいずれかを選択し 6 単位履修		
専門基礎科目	必修科目	47 単位	
	資格必修科目	6 単位	
専門科目	必修科目	35 単位	
	資格必修科目	23 単位	
			合計 135 単位以上

管理栄養士国家試験受験資格および教員免許状（栄養）を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野	6 単位以上	計 26 単位以上
	社会科学分野	6 単位以上	
	*教員資格必修科目 2 単位（日本国憲法）を含めること		
	自然科学分野	6 単位以上	
	外国語分野	8 単位以上	
*英語・ドイツ語・フランス語・中国語のいずれかを選択し 6 単位履修			
*教員資格必修科目 2 単位（外国語コミュニケーション）を含めること			
専門基礎科目	必修科目	47 単位	
	管理栄養士国家試験受験資格必修科目	6 単位	
	教員資格必修科目	1 単位	
専門科目	必修科目	35 単位	
	管理栄養士国家試験受験資格必修科目	23 単位	
	教員資格必修科目	4 単位	
教職科目		20 単位	
			合計 162 単位以上

〔保健栄養学科 栄養科学専攻〕平成 27 年度入学生
卒業要件

基礎・教養科目	人文科学分野	6 単位以上	計 24 単位以上
	社会科学分野	6 単位以上	
	自然科学分野	6 単位以上	
	外国語分野	6 単位以上	
	*英語・ドイツ語・フランス語・中国語のいずれかを選択し 6 単位履修		
専門基礎科目	必修科目	27 単位	
専門科目	必修科目	42 単位	
総合分野	必修科目	2 単位	
			合計 124 単位以上

栄養士免許を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野 社会科学分野 自然科学分野 外国語分野 *英語・ドイツ語・フランス語・中国語のいずれかを 選択し6単位履修	6単位以上 6単位以上 6単位以上 6単位以上	計 24単位以上
専門基礎科目	必修科目	27単位	
専門科目	必修科目 資格必修科目	42単位 3単位	
総合分野	必修科目	2単位	
			合計 124単位以上

栄養士免許および臨床検査技師国家試験受験資格を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野 社会科学分野 自然科学分野 外国語分野 *英語・ドイツ語・フランス語・中国語のいずれかを 選択し6単位履修	6単位以上 6単位以上 6単位以上 6単位以上	計 24単位以上
専門基礎科目	必修科目	27単位	
専門共通科目	必修科目 栄養士資格必修科目	42単位 3単位	
専門科目	臨床検査技師国家試験受験資格必修科目	82単位	
総合分野	必修科目	2単位	
			合計 180単位以上

注) この他に「臨床検査学英文原書講読」を履修することが望ましい。

栄養士免許、スポーツリーダーおよびスポーツ栄養実践指導者の資格を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野 社会科学分野 自然科学分野 外国語分野 *英語・ドイツ語・フランス語・中国語のいずれかを 選択し6単位履修	6単位以上 6単位以上 6単位以上 6単位以上	計 24単位以上
専門基礎科目	必修科目	27単位	
専門共通科目	必修科目 栄養士資格必修科目 健康スポーツ栄養コース必修科目	42単位 3単位 1単位	
専門科目	スポーツ栄養実践指導者資格必修科目 (スポーツリーダー資格必修科目9単位を含む)	24単位	
総合分野	必修科目 スポーツ栄養実践指導者資格必修科目	2単位 2単位	
			合計 125単位以上

栄養士免許、フードスペシャリスト資格認定試験受験資格および食品微生物検査技士受験資格^注を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野 社会科学分野 自然科学分野 外国語分野 *英語・ドイツ語・フランス語・中国語のいずれかを選択し6単位履修	6単位以上 6単位以上 6単位以上 6単位以上	計 24単位以上
専門基礎科目	必修科目	27単位	
専門共通科目	必修科目 栄養士資格必修科目 食品安全管理コース必修科目 食品安全管理コース指定科目	42単位 3単位 2単位 3単位	
専門科目	フードスペシャリスト資格認定試験受験資格 必修科目 食品微生物検査技士受験資格必修科目 食品安全管理コース必修科目 食品安全管理コース指定科目	13単位 1単位 7単位 4単位	
総合分野	必修科目	2単位	
			合計 128単位以上

栄養士免許および教員免許状（家庭）を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野 社会科学分野 *教員資格必修科目2単位（日本国憲法）を含めること 自然科学分野 外国語分野 *英語・ドイツ語・フランス語・中国語のいずれかを選択し6単位履修 *教員資格必修科目2単位（外国語コミュニケーション）を含めること	6単位以上 6単位以上 6単位以上 8単位以上	計 26単位以上
専門基礎科目	必修科目	27単位	
専門共通科目	必修科目 栄養士資格必修科目 教員資格必修科目	42単位 3単位 2単位	
専門科目	教員資格必修科目 家庭科教職コース指定科目 ^{注)}	52単位 3単位	
総合分野	必修科目 家庭科教職コース指定科目 ^{注)}	2単位 2単位	
			合計 159単位以上

注) 教員申請科目ではないが、家庭科教職コース指定科目である。

栄養士免許、教員免許状（家庭）およびスポーツリーダーの資格を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野 社会科学分野 *教員資格必修科目2単位（日本国憲法）を含めること 自然科学分野 外国語分野 *英語・ドイツ語・フランス語・中国語のいずれかを選択し6単位履修 *教員資格必修科目2単位（外国語コミュニケーション）を含めること	6単位以上 6単位以上 6単位以上 8単位以上	計 26単位以上
専門基礎科目	必修科目	27単位	
専門共通科目	必修科目 栄養士資格必修科目 教員資格必修科目 健康スポーツ栄養コース必修科目	42単位 3単位 2単位 1単位	
専門科目	教員資格必修科目 家庭科教職コース指定科目 ^{注)} スポーツリーダー資格必修科目	52単位 3単位 9単位	
総合分野	必修科目 家庭科教職コース指定科目 ^{注)}	2単位 2単位	
			合計 169単位以上

注) 教員申請科目ではないが、家庭科教職コース指定科目である。

栄養士免許、教員免許状（家庭）スポーツリーダーおよびスポーツ栄養実践指導者の資格を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野 社会科学分野 *教員資格必修科目2単位（日本国憲法）を含めること 自然科学分野 外国語分野 *英語・ドイツ語・フランス語・中国語のいずれかを選択し6単位履修 *教員資格必修科目2単位（外国語コミュニケーション）を含めること	6単位以上 6単位以上 6単位以上 8単位以上	計 26単位以上
専門基礎科目	必修科目	27単位	
専門共通科目	必修科目 栄養士資格必修科目 教員資格必修科目 健康スポーツ栄養コース必修科目	42単位 3単位 2単位 1単位	
専門科目	教員資格必修科目 家庭科教職コース指定科目 ^{注)} スポーツ栄養実践指導者資格必修科目 (スポーツリーダー資格必修科目9単位を含む) 教員・スポーツ栄養実践指導者資格必修科目 (生涯スポーツ演習・)	50単位 3単位 22単位 2単位	
総合分野	必修科目 家庭科教職コース指定科目 ^{注)} スポーツ栄養実践指導者資格必修科目	2単位 2単位 2単位	
			合計 184単位以上

注) 教員申請科目ではないが、家庭科教職コース指定科目である。

栄養士免許、教員免許状（家庭）および食品微生物検査技士受験資格を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野 社会科学分野 *教員資格必修科目2単位（日本国憲法）を含めること 自然科学分野 外国語分野 *英語・ドイツ語・フランス語・中国語のいずれかを選択し6単位履修 *教員資格必修科目2単位（外国語コミュニケーション）を含めること	6単位以上 6単位以上 6単位以上 8単位以上	計 26単位以上
専門基礎科目	必修科目	27単位	
専門共通科目	必修科目 栄養士資格必修科目 教員資格必修科目 食品安全管理コース必修科目	42単位 3単位 2単位 2単位	
専門科目	教員資格必修科目 家庭科教職コース指定科目 ^{注2)} 食品安全管理コース必修科目 食品微生物検査技士受験資格必修科目	52単位 3単位 9単位 1単位	
総合分野	必修科目 家庭科教職コース指定科目 ^{注2)}	2単位 2単位	
			合計 171単位以上

注) 教員申請科目ではないが、家庭科教職コース指定科目である。

栄養士免許、教員免許状（家庭）フードスペシャリスト資格認定受験資格および食品微生物検査技士受験資格を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野 社会科学分野 *教員資格必修科目2単位（日本国憲法）を含めること 自然科学分野 外国語分野 *英語・ドイツ語・フランス語・中国語のいずれかを選択し6単位履修 *教員資格必修科目2単位（外国語コミュニケーション）を含めること	6単位以上 6単位以上 6単位以上 8単位以上	計 26単位以上
専門基礎科目	必修科目	27単位	
専門共通科目	必修科目 栄養士資格必修科目 教員資格必修科目 食品安全管理コース必修科目	42単位 3単位 2単位 2単位	
専門科目	教員資格必修科目 家庭科教職コース指定科目 ^{注2)} 食品安全管理コース必修科目 フードスペシャリスト資格認定試験受験資格必修科目 食品微生物検査技士受験資格必修科目	52単位 3単位 7単位 13単位 1単位	
総合分野	必修科目 家庭科教職コース指定科目 ^{注2)}	2単位 2単位	
			合計 182単位以上

注) 教員申請科目ではないが、家庭科教職コース指定科目である。

〔保健栄養学科 保健養護専攻〕平成 27 年度入学生

卒業要件

基礎・教養科目	人文科学分野	6 単位以上	計 24 単位以上
	社会科学分野	6 単位以上	
	自然科学分野	6 単位以上	
	外国語分野	6 単位以上	
	*英語・ドイツ語・フランス語・中国語のいずれかを選択し 6 単位履修		
専門基礎科目	必修科目	15 単位	
専門科目	必修科目	37 単位	
			合計 124 単位以上

教員免許状（養護・保健および看護）を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野	6 単位以上	計 26 単位以上
	社会科学分野	6 単位以上	
	*資格必修科目 2 単位（日本国憲法）を含めること		
	自然科学分野	6 単位以上	
	外国語分野	8 単位以上	
*英語・ドイツ語・フランス語・中国語のいずれかを選択し 6 単位履修			
*資格必修科目 2 単位（外国語コミュニケーション）を含めること			
専門基礎科目	必修科目	15 単位	
	資格必修科目	4 単位	
専門科目	必修科目	37 単位	
	資格必修科目	37 単位	
教職科目	44 単位（注意：教育実習指導・養護実習指導・教育実習・養護実習・教職実践演習（養護教諭）および（中・高）の計 14 単位は卒業必要単位に含めることができない）		
			合計 163 単位以上

教員免許状（養護および保健）を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野	6 単位以上	計 26 単位以上
	社会科学分野	6 単位以上	
	*資格必修科目 2 単位（日本国憲法）を含めること		
	自然科学分野	6 単位以上	
	外国語分野	8 単位以上	
*英語・ドイツ語・フランス語・中国語のいずれかを選択し 6 単位履修			
*資格必修科目 2 単位（外国語コミュニケーション）を含めること			
専門基礎科目	必修科目	15 単位	
	資格必修科目	4 単位	
専門科目	必修科目	37 単位	
	資格必修科目	33 単位	
教職科目	40 単位（注意：教育実習指導・養護実習指導・教育実習・養護実習・教職実践演習（養護教諭）および（中・高）の計 14 単位は卒業必要単位に含めることができない）		
			合計 155 単位以上

教員免許状（養護）を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野 社会科学分野 *資格必修科目2単位（日本国憲法）を含めること 自然科学分野 外国語分野 *英語・ドイツ語・フランス語・中国語のいずれかを選択し6単位履修 *資格必修科目2単位（外国語コミュニケーション）を含めること	6単位以上 6単位以上 6単位以上 8単位以上 計 26単位以上
専門基礎科目	必修科目 資格必修科目	15単位 2単位
専門科目	必修科目 資格必修科目	37単位 23単位
教職科目	24単位（注意：養護実習指導・養護実習・教職実践演習（養護教諭）の計7単位は卒業必要単位に含めることができない）	
		合計 131単位以上

教員免許状（保健）を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野 社会科学分野 *資格必修科目2単位（日本国憲法）を含めること 自然科学分野 外国語分野 *英語・ドイツ語・フランス語・中国語のいずれかを選択し6単位履修 *資格必修科目2単位（外国語コミュニケーション）を含めること	6単位以上 6単位以上 6単位以上 8単位以上 計 26単位以上
専門基礎科目	必修科目 資格必修科目	15単位 2単位
専門科目	必修科目 資格必修科目	37単位 17単位
教職科目	33単位（注意：教育実習指導・教育実習・教職実践演習（中・高）の計7単位は卒業必要単位に含めることができない）	
		合計 131単位以上

〔食文化栄養学科〕平成27年度入学生

卒業要件

基礎・教養科目	人文科学分野 社会科学分野 自然科学分野 外国語分野 *英語・フランス語・中国語のいずれかを選択し6単位履修	6単位以上 6単位以上 6単位以上 6単位以上 計 24単位以上
専門基礎科目	必修科目	32単位
専門科目	必修科目	28単位
		合計 124単位以上

3コースのうちいずれか1コースに帰属し、コース必修科目を履修すること。

フードスペシャリスト資格認定試験受験資格を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野	6単位以上	計 24単位以上
	社会科学分野	6単位以上	
	自然科学分野	6単位以上	
	外国語分野	6単位以上	
	*英語・フランス語・中国語のいずれかを選択し6単位履修		
専門基礎科目	必修科目	32単位	
専門科目	必修科目	28単位	合計 124単位以上
	資格必修科目	17単位	

3コースのうちいずれか1コースに帰属し、コース必修科目を履修すること。

フードコーディネーター（3級）の資格を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野	6単位以上	計 24単位以上
	社会科学分野	6単位以上	
	自然科学分野	6単位以上	
	外国語分野	6単位以上	
	*英語・フランス語・中国語のいずれかを選択し6単位履修		
専門基礎科目	必修科目	32単位	
専門科目	必修科目	28単位	合計 124単位以上
	資格必修科目	5単位	

3コースのうちいずれか1コースに帰属し、コース必修科目を履修すること。

フードスペシャリスト資格認定試験受験資格およびフードコーディネーター（3級）の資格を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野	6単位以上	計 24単位以上
	社会科学分野	6単位以上	
	自然科学分野	6単位以上	
	外国語分野	6単位以上	
	*英語・フランス語・中国語のいずれかを選択し6単位履修		
専門基礎科目	必修科目	32単位	
専門科目	必修科目	28単位	合計 124単位以上
	フードスペシャリスト資格認定試験受験資格必修科目	17単位	
	フードコーディネーター(3級)資格必修科目	5単位	

3コースのうちいずれか1コースに帰属し、コース必修科目を履修すること

【女子栄養大学短期大学部】

〔食物栄養学科〕

	資格を取得しないで卒業するための要件	栄養士の資格を取得して卒業するための要件	フードスペシャリスト受験の資格を取得して卒業する要件	栄養士とフードスペシャリスト受験の資格を取得して卒業する要件	栄養士と栄養教諭の資格を取得して卒業する要件	栄養士・フードスペシャリスト受験・栄養教諭の資格を取得して卒業する要件
栄養士必修科目	14 単位以上 卒業必修科目、卒業選択必修単位を必ず履修すること	50 単位	20 単位以上 食品学総論、食品学各論（食品加工学を含む）、食品学実験（食品加工実習を含む）、食品衛生学、栄養学総論、調理学、基礎調理学実習<1>・<2>調理科学実験（官能評価・統計処理を含む）及び卒業必修の選択必修単位を必ず履修すること	50 単位	50 単位	50 単位
専門科目	48 単位以上 栄養士必修科目の選択科目、専門科目、基礎・教養科目より 45 単位以上を履修すること	11 単位以上 実践栄養学演習を必ず履修すること	42 単位以上 栄養士必修科目の選択科目、専門科目、基礎・教養科目より 34 単位以上を履修すること 実践栄養学演習、食料経済（フードマーケティング論を含む）	11 単位以上 実践栄養学演習、食料経済（フードマーケティング論を含む）、食品科学（食品物性・機能論を含む）、食品化学実験の 4 科目を必ず履修すること	11 単位以上 実践栄養学演習、情報処理・生物統計演習、健康づくり運動処方、健康管理スポーツ実践の 4 科目を必ず履修すること	11 単位以上 実践栄養学演習、食料経済（フードマーケティング論を含む）、食品科学（食品物性・機能論を含む）、食品化学実験、情報処理・生物統計演習、健康づくり運動処方、健康管理スポーツ実践の 7 科目を必ず履修すること
基礎・教養科目	専門科目の実践栄養学演習及び基礎・教養科目の就業支援演習を必ず履修すること	6 単位以上 就業支援演習を必ず履修すること	食品科学（食品物性・機能論を含む）食品化学実験、就業支援演習を必ず履修すること	6 単位以上 就業支援演習を必ず履修すること	6 単位以上 就業支援演習・、日本国憲法、外国語コミュニケーションの 4 科目を必ず履修すること	6 単位以上 就業支援演習・、日本国憲法、外国語コミュニケーションの 4 科目を必ず履修すること
教職必修科目					15 単位	15 単位
自由選択科目			4 単位以上 フードスペシャリスト論、フードコーディネート論の 2 科目を必ず履修すること	4 単位以上 フードスペシャリスト論、フードコーディネート論の 2 科目を必ず履修すること		4 単位以上 フードスペシャリスト論、フードコーディネート論の 2 科目を必ず履修すること
合計	62 単位以上	67 単位以上	66 単位以上	71 単位以上	82 単位以上	86 単位以上

(6) 学習環境に関する情報

校地、校舎（キャンパスの概要）

キャンパス所在地

女子栄養大学	大学院	坂戸キャンパス
	栄養学部	埼玉県坂戸市千代田三丁目9番21号
	栄養学部二部	
女子栄養大学短期大学部		駒込キャンパス
香川調理製菓専門学校		東京都豊島区駒込三丁目24番3号

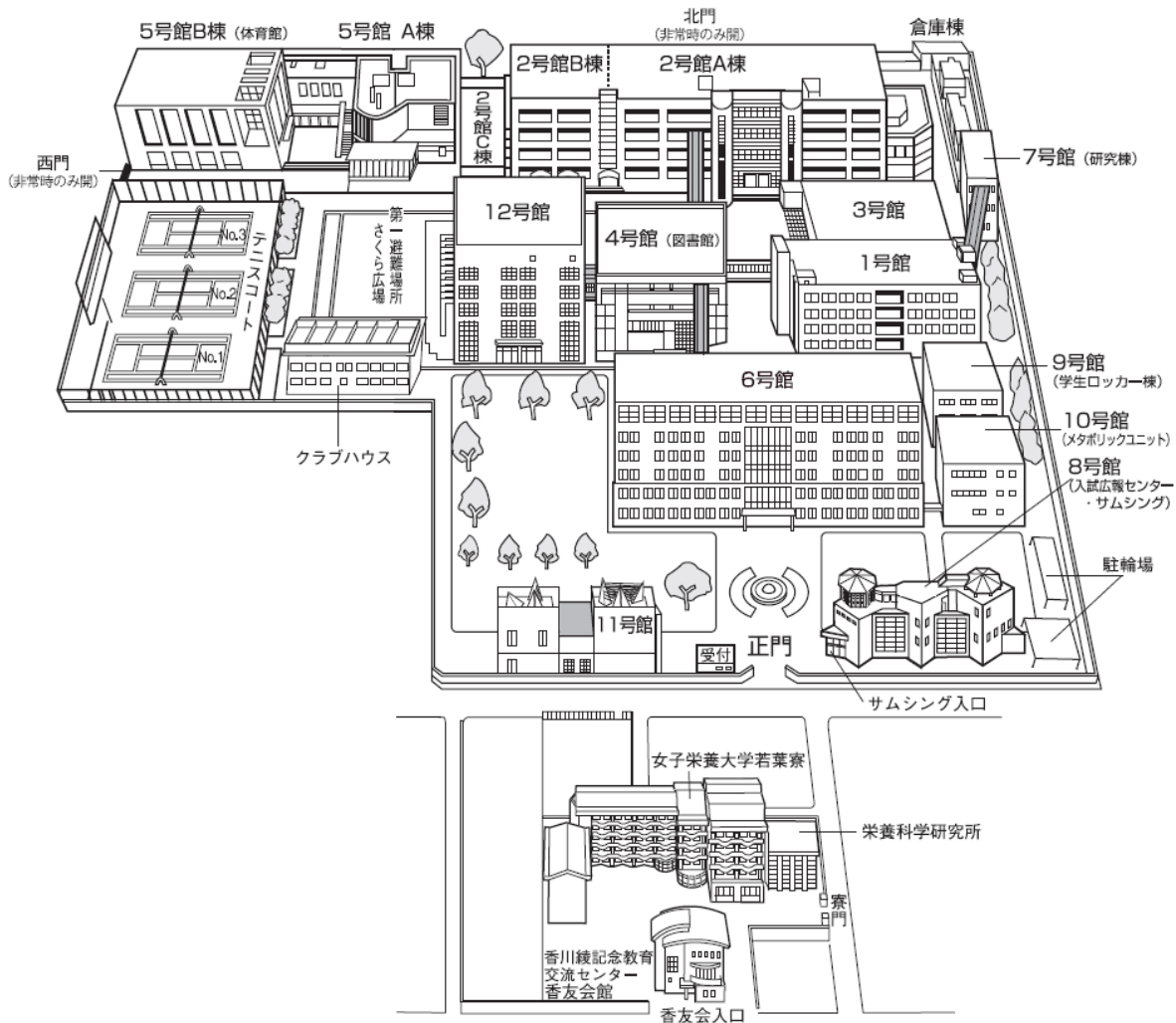
キャンパスの概要

【坂戸キャンパス】

閑静な街並に、のびのびと広がる坂戸キャンパス。

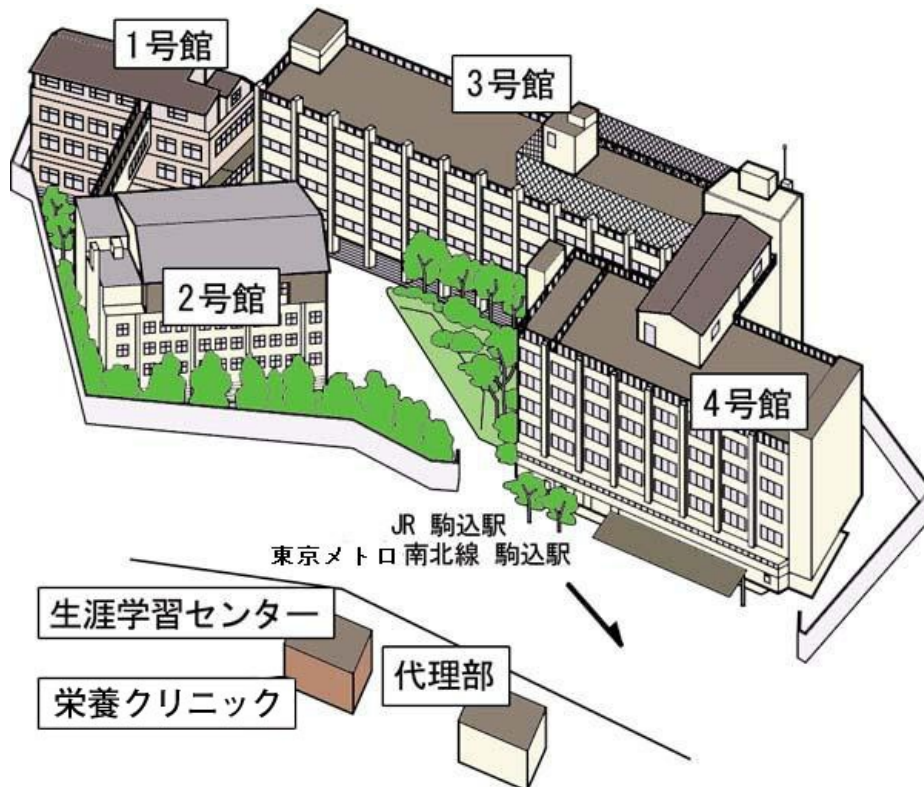
春ともなると大木が桜花を競い、学生たちの目を楽しませます。

昼夜を問わず学問と研究に打ち込む人影の絶えない、栄養学の前線基地です。



【駒込キャンパス】

都心にほど近いこの地こそ本学が発展する基礎を築いた地。
 充実した実験・実習設備と高度な研究内容は、今も高いレベルを誇っています。



校地

(単位：㎡)

学校	基準面積	現有面積	差異	屋外運動場
女子栄養大学	17,480	58,369	40,889	10,677
女子栄養大学短期大学部	3,200	8,119	4,919	4,142
香川調理製菓専門学校	-	750	-	-
計	20,680	67,238	45,808	14,819

校舎

学校	基準面積	現有面積	差異	体育施設
女子栄養大学	16,367	42,649	26,282	1,298
女子栄養大学短期大学部	3,100	9,390	6,290	478
香川調理製菓専門学校	980	2,260	1,280	-
計	63,757	54,299	33,852	1,776

主な交通手段
【坂戸キャンパス】



東京	JR山手線 23分	池袋	東武東上線(急行)40分	若葉駅 坂戸キャンパス				
大宮	JR川越線・埼京線(快速) 20分	川越	東武東上線(急行)11分					
小平	西武新宿線32分	本川越	徒歩10分		川越市	東武東上線(急行)9分		
八王子	JR中央線(快速)16分	西国分寺	JR武蔵野線19分		北朝霞	徒歩2分	朝霞台	東武東上線(急行)25分
横浜	JR湘南新宿ライン 37分	池袋	東武東上線(急行)40分					
千葉	JR総武線(快速)30分	錦糸町	JR総武線(各停)7分		秋葉原	JR山手線20分	池袋	東武東上線(急行)40分

【駒込キャンパス】



東京	JR山手線 16分	駒込駅 駒込キャンパス	
大宮	JR埼京線(快速) 26分	池袋	JR山手線 7分
千葉	JR総武線 47分	秋葉原	JR山手線 13分
横浜	JR湘南新宿ライン 37分	池袋	JR山手線 7分
宇都宮	JR湘南新宿ライン 1時間34分	池袋	JR山手線 7分

課外活動の状況および施設等

女子栄養大学

課外活動の充実

栄養学部の公認クラブは24団体(体育系9団体、文化系15団体)、登録サークル24団体が活動。各クラブ代表によるクラブ委員会を組織。新入生対象クラブオリエンテーションの運営や施設の使用について協議しています。学部の学生生活課では、授業で忙しい学生にとって、限られた活動時間の中で、クラブ・サークル活動の活性化が図れるよう、きめ細かなサポートに努めた。学外活動の紹介掲示(6号館1階掲示板)のほか、カフェテリア・学生ホールに設置されている「地デジ de インフォ」の利用を実現した上、使用ルールの整備も実施しました。

学生主催の学園祭『若葉祭』は、毎年5月末または6月初めの土曜日、日曜日に開催。学生の若葉祭実行委員会が企画・運営し、学生生活課を中心とした教職員がサポートしています。平成27年度の『若葉祭』は5月30日、31日に開催され、学内外の来場者数は13,231人(学内学生と教職員、学外学生、一般来場者の総計)に上り、過去最高を記録しました。規模の拡大と共に実行委員の学生の人数も平成27年度は430人と増加傾向にあり、活発な活動を行っています。

公認クラブ団体

硬式庭球部	弓道部	バレーボール部
バドミントン部	バスケットボール部	ワンダーフォーゲル部
卓球部	マラソン部	競技ダンス部
ギタークラブ	ハルモニアオーケストラ	軽音楽部
合唱団あらぐさ	美術部	茶道部
点心部	たんぼぼ	華道部
食育ボランティア ~ ニコニコ会~	栄大国際学生交流会(ICE)	アグリネイチャー
English Communication Club	EIDAI COOKING STUDIO (ECOS)	スポーツ栄養サポート部~KSC~
二部舞踏研究部	絆プラス1(ワン)	ハンドメイ道部

学部二部(イブニングコース)

施設

坂戸キャンパス教室、学内設置テニスコート(夜間照明設備あり)、藤金運動場テニスコート、若葉グラウンド、体育館、小体育室、11号館(クラブ活動の充実をはかるための施設。防音設備の整った音楽練習室3室、集会室7室、楽器庫2室、トランクルーム3室)。

クラブハウス(クラブ室27室倉庫2室、若葉祭実行委委員会室(倉庫1室、ミーティングルーム1室)、給湯室2室、運動用具倉庫)は、学園創立80周年記念事業として平成25年9月竣工。

大学からの支援

学生の課外活動に対して「課外活動補助費」として大学の学生生活課の予算に計上し、経済的な支援を行っています。課外活動補助費は1団体73,958円(平成27年度・栄養学部)です。この補助費の算出方法は、活動内容、活動日数など、活動状況に応じた配分および連盟への登録費用・施設利用費の一部補助などを勘案して算出しています。なお、スポーツ系クラブでは大会出場登録日、音楽関係クラブでは演奏会場費なども参考にしています。年度末にはクラブ活動費報告書および領収書を学生生活課に提出します。

平成27年度の課外活動補助費は、総額1,775,000円でした。また、特別補助として硬式庭球部に物品(ネット)購入費用の一部として99,727円を補助しました。

女子栄養大学短期大学部

活動

駒込祭実行委員会	学生会	学習支援活動部
調理研究部	茶道部	合唱団あらぐさ

卓球部	ハルモニアオーケストラ	山ごはんクラブ
あおぞらクラブ	まちかどラブソディ	こども食育くらぶ
気まぐれバスケット	スイーツサークル Amitie	球技サークル \ corocoro /
ごはんの根っこ	東京さんぽ	囲碁部
Victive		

施設

体育館、学生執行部室、駒込祭実行委員会室・クラブ室（1号館4階）

支援

課外活動補助費は、所属団体構成人数により算出し助成します。また、学生の自治会である学生会により、学園祭、クラブ活動の経済的支援を行なっています。

学園祭（駒込祭）の企画・運営は駒込祭実行委員会が行なっており、相談役として学生部長びクラス担任、ゼミ指導教員及び教務学生担当の事務職員がサポートしています。

(7) 学生納付金に関する情報

授業料、入学料他大学が徴収する費用

女子栄養大学 栄養学部 栄養学部二部

(単位:円)

【1年生】	栄養学部				栄養学部二部
	実践栄養学科	保健栄養学科		食文化栄養学科	保健栄養学科
		栄養科学専攻	保健養護専攻		
【学納金】					
入学金（入学時）	375,000	375,000	375,000	361,000	260,000
授業料（前期分）	490,000	490,000	490,000	483,500	240,500
実験実習教育研究費（前期分）	136,000	136,000	136,000	125,000	57,500
施設費（前期分）	235,500	235,500	235,500	235,500	117,500
小計	1,236,500	1,236,500	1,236,500	1,205,000	675,500
【諸経費】					
調理学実習費（前期分）	19,900	18,800	18,900	21,100	16,100
同窓会入会金（入学時）	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000
保護者会費（入学時）	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
小計	59,900	58,800	58,900	61,100	56,100
合計	1,296,400	1,295,300	1,295,400	1,266,100	731,600
【学用品費】					
教科書含む（前期分）	112,000	100,000	98,000	93,000	33,000

【編入学生】	栄養学部		栄養学部二部
	実践栄養学科	食文化栄養学科	保健栄養学科
【学納金】			
入学金（入学時）	375,000	361,000	260,000
授業料（前期分）	490,000	483,500	240,500
実験実習教育研究費（前期分）	136,000	125,000	57,500
施設費（前期分）	235,500	235,500	117,500
小計	1,236,500	1,205,000	675,500
【諸経費】			
同窓会入会金（入学時）	30,000	30,000	30,000
合計	1,266,500	1,235,000	705,500

学生寮費（若葉寮）

	前期分（4月～9月）	後期（10月～3月）
入寮費（入寮時のみ）	100,000	.
寮費	300,000	300,000
管理費	30,000	30,000
計	430,000	330,000

女子栄養大学 大学院

（単位：円）

	修士課程		博士後期課程	
入学金	200,000		200,000	
授業料（年額）	528,000	（2回分納）	528,000	（2回分納）
実験実習教育研究費（年額）	521,000	（2回分納）	521,000	（2回分納）
施設費（年額）	23,000	（2回分納）	23,000	（2回分納）

女子栄養大学短期大学部

【1年生】	食物栄養学科
【学納金】	
入学金（入学時）	360,000
授業料（前期分）	377,000
実験実習教育研究費（前期分）	133,000
施設費（前期分）	179,500
小計	1,049,500
【諸経費】	
調理学実習費（前期分）	19,800
給食管理実習給食代	5,000
家庭料理技能検定3級	12,000
学生会会費	2,000
同窓会入会金（入学時）	30,000
保護者会会費（入学時）	5,000
小計	73,800
合計	1,123,300
【学用品費】	
教科書含む（前期分）	113,000

香川調理製菓専門学校 調理専門課程

	調理マスター課	調理師科	製菓科
入学金	212,000	212,000	212,000
授業料（年額）	562,000	562,000	562,000
実習教育研究費（年額）	115,000	115,000	115,000
調理実習費（年額）	243,000	243,000	製菓実習費（年額） 210,000
施設費	230,000	230,000	230,000
合計	1,362,000	1,362,000	1,329,000

（8）学生支援と奨学金に関する情報

大学が行なう支援（修学進路選択、心身の健康等）

学生相談（メンタルケア）

小さな悩みにも、カウンセラーが適切なアドバイスをしています。学生生活を送る中では、さまざまな悩みや問題も生じてきます。悩みは、人に話すことで問題を客観的にとらえられたり、それが自分ひとりのものではないと気づいたりします。

学生相談室は勉強やアルバイト、プライベートなことなどの相談に応じるために、臨床心理士2人と精神科医師1人が担当しており、月平均12日開室しています。利用者は延べ136人、うち新規利用者は32人で利用者数はほぼ横ばいの状況です。相談内容等は秘密を厳守しています。

心の問題を抱えている学生等、問題を持つ学生に対しては担任、学部教務課、大学院教務課、学生生活課、保健センターが情報を共有し、必要に応じて学科長、大学学生部長らを交えて家族とも連携しながら全力を挙げてサポート体制を敷いています。また、必要に応じて、保護者に連絡し、本人と保護者の面談を行うなど、解決に向けた努力を継続しています。

学生の防犯意識向上をはかる

付きまとい、盗撮、盗難、インターネットトラブル、ブラックアルバイトなどの相談が本学でも発生していることから、全学生向けにトラブルに巻き込まれないための啓蒙・注意喚起（掲示などによる情報提供）を行いながら、学生の防犯意識を高めるよう努力した。下宿付近でトラブルがあった場合には同じ下宿に入居する他の学生に向けて eiyo アドレスを使って個別の注意喚起を行っています。

こうした問題について相談があった場合は速やかに家庭・警察への相談を促しました。また、大学近隣の警邏強化などの協力を要請するために西入間警察署を訪問した。重大な事案につながるケースを想定し事件発生時の対応についても検討しています。

保健センター

保健センターでは、主に定期健康診断、健康相談、応急処置などを行っています。心や体がつらい時は、サポートをしています。

(1) 保健管理

学生・生徒について

「健康管理システム」: 入学時に提出された健康調査票に基づく詳細な調査（校医面談による確認）と学年はじめに実施する定期健康診断の結果を総合した情報を、各個人の健康指導の資料とするとともに、各個人の教育環境の安全をはかるために、各分野の教職員からなる委員会により「健康情報システム」として構築され、特に食材や動物を扱う実習などで2年前から活用され、激しいアレルギー反応発症の予防などに役立てています。今年度からは、入学後の健康状態の変化をもシステムに入力して健康管理をしています。

教職員について

労働安全衛生管理法に基づく定期健康診断、人間ドック、さらには特定健診などの受診とその結果報告提出を勧奨しています。それらの健診の結果に基づき実施する保健指導は可能な限り、一元化する努力をしてきました。平成27年12月に実施が義務化された「ストレスチェック」制度運用の基盤となる本学園の安全衛生管理委員会組織の構想がすでに討議され、発足・活動が開始しています。

(2) 感染症対策

学園内で集団発生を予防すべき感染症は、インフルエンザ、麻疹・風疹などに止まらず、近年、ノロウイルスをはじめとする各種の感染症胃腸炎が年間を通じて流行し、特に学外実習に出る学生への指導と、追加予防接種が求められていますが、前期健康管理システムを用いて、学生・生徒の個人指導をより迅速に適正に実施することができました。なお、麻疹抗体保有率は、平成27年の新入生では、98%を超えており、学園内の麻疹の集団発生を阻止出来る高水準を維持しています。

(3) 健康危機管理体制の構築

AED の使用法、救急搬送を含む救命救急法についての学園内の訓練、および大規模災害時の初期医療体制構築の委員会に参加し、救命医療器具、装置などの整備を実施しました。

定期健康診断

年1回、4月に実施しています。受診できない場合は、各自が医療機関で受診（自費）し、結果を速やかに保健センターに提出しています。

健康相談

病院へ行くほどではないが、体のことで心配なことや聞いてみたいことなどがある場合、以下のとおり医師や看護師が相談にのっています。

*また、キャンパス周辺の医療機関案内（受診時間や地図など）を用意しています。

医師による健康相談

相談内容	駒込	坂戸
内科医（センター長相談）	火曜日	水曜日
学医相談		月1回
精神科医相談	月1回	
婦人科医相談	月1回	月1回

原則として予約制

日時は保健センター掲示板で連絡。

必要に応じて、専門医を紹介します。

その他、悩みや心配事、疑問など随時、看護師が相談にのっています。

応急処置

学内でのケガや急病時は、保健センターで応急処置を行なっています。

体調が悪いときは、ベッド休養もできます。

【駒込保健センター利用案内】

開室時間 月～金 9:00～21:30 土 9:00～12:20

場 所 2号館2階（階段上がってすぐ）

連 絡 Tel・Fax 03-3576-3221

【坂戸保健センター利用案内】

開室時間 月～金 9:00～18:30 土 9:00～12:20

学生寮（女子栄養大学若葉寮）

坂戸キャンパスから徒歩1分、東武東上線若葉駅から徒歩2分、5階建ワンルームマンションタイプの学生寮を設置しています。

入寮時には、身の回りのものを準備するだけで安心・快適な暮らしがスタートできます。

入寮定員約100人。入寮対象者は昼間部女子学生に限ります。在寮期間は2年間。管理人常駐。門限23時。全洋室。1室1人ベッド・デスク・本棚・物入れ・ユニットバス・キッチン・冷蔵庫・洗濯機・シューズケース・トイレ・エアコン付個室のほかに共用の部屋として、ゼミ室、多目的室（和室）、談話室。

所在地 埼玉県坂戸市千代田3-18-17（坂戸キャンパスから徒歩1分）

(交通案内)

東武東上線「若葉」駅東口より、徒歩2分

学生寮から駒込（短期大学部）キャンパスまでの通学時間約1時間

通学定期代(駒込キャンパスまで)1ヶ月/7,660円 3ヶ月/21,830円 6ヶ月/41,370円

エアコン・冷蔵庫などが故障するなど、築年数経過による寮内家電の交換が増加しています。また、築年数の経過に伴い、今後も定期的な機器・備品の取替えが発生するが、居住する学生には不便が生じないように計画的な保守の実施を心がけている。近隣に学生会館が新設されたことに伴い、設備やサービス面の情報収集を行い、施設の見直しも図っている。

行事関係では、例年通り、寮生間の交流を図る歓迎会、クリスマスコンパを開催している。その開催にあたっては寮の役員を任された学生が主体となって企画・運営しています。学生生活課ではそれら行事のサポートを行い、寮生間の交流を深めるように努めています。また、退寮後の一人暮らしに向けて十分な安全指導と社会ルールの説明を行い、不便をきたさないようサポートを実施しています。

学生の経済的支援について

日本学生支援機構の奨学金は、大学進学前に貸与を申し込んだ予約奨学生の入学もありますが、入学後の学生に向けては学生生活課で複数回の説明会を開催して、周知・申込受付を行っています。

学園独自の貸与型奨学金である北郁子奨学基金奨学金（1・2年生対象）、横巻のぶ記念奨学金（3・4年生対象）はそれぞれ6人（総額180万円）、9人（総額4,314,800円）が貸与を受けました。また野口医学研究所奨学金は「経済的理由により就学を継続することに支障がある最終学年在籍の学生」を対象とする給付型奨学金であり、学部生8人が給付を受けました（一人あたり24万円を学納金に充当して給付）。

学納金未納の学生には本人からの聞き取り、家族への連絡（電話等）を行って家計状況を確認し、日本学生支援機構の奨学金や本学奨学金の情報を提供しています。

平成27年度は、上記の日本学生支援機構の奨学金、および本学独自の奨学金などについてオープンキャンパスで新たに1教室での説明会を実施するなど、一層の情報提供に努めた結果、横巻のぶ記念奨学金の希望者が増加するなど、例年以上に必要な学生に奨学金の貸与や支給が実施できました。また、学生の学納金納入状況の確認をきめ細かく行い、延滞者には早期に事情を聞き、奨学金の紹介を行ったところ、経済的な理由による退学者は減少しました。

奨学金・奨励金等の概要

本学で扱っている奨学金制度等としては以下の支援制度があります。

北 郁子奨学基金（大学1・2年生、短期大学部1年生）

本学卒業生、北 郁子氏の「経済的理由のために母校で学ぶことができないことが無いように、若い方々を支援し育成したい」との遺志を継いだ奨学金制度です。平成21年創設。学納金の納入に著しい困難を来した学生に対し、半期ごとに学納金の一部を貸与（無利子）しています。書類審査・面接等により希望に添えない場合もあります。

横巻のぶ記念奨学金（大学3年生以上・短期大学部2年生・専門学校生徒）

本学園創立50周年記念事業の一環として設立された、創立者香川綾の生母名を冠した奨学金制度です。家庭の事情により、修学の途中で学納金の納入に著しい困難を来した学生に対し、半期ごとに学納金の一部を貸与（無利子）しています（1年制課程は後期学納金が対象）。書類審査・面接等により希望に添えない場合もあります。

香友会わかば奨学金（大学4年生・短期大学部2年生・専門学校生徒）

各学科、専攻における教育の理念を基に、それぞれの専門性を活かした社会活動を志向して学業向上に意欲を持って取り組んでいる学生に対して、その目的を遂行するための費用を助成（授与）するものです。

東京都育英資金（専門学校）

都内に居住し、勉学意欲があり、経済的理由による就学困難なものに対して必要な学資金を貸し付け有用な人材を育成するための制度である。

DNP 奨学金（大学4年生・短期大学部2年生）

株式会社 DNP ファシリティーサービスと学校法人香川栄養学園との連携協力に基づき、DNP 奨学金が設立しました。本学園の長年にわたる日本の栄養学を先導する先進的な諸活動への敬意と、そこに学ぶ学生の学業を支援し勉学を奨励することを目的として、前年度までの学業成績が優秀な学生を選考し、奨学金を給付しています。平成27年度は、大学8人、短大部2人が奨学生となりました。

野口医学研究所奨学金

（大学4年生・短期大学部2年生・専門学校調理マイスター課2年生）

米国財団法人野口医学研究所・NPO 野口医学研究所〔浅野ファンド〕と学校法人香川栄養学園との連携協力に基づいて創設された奨学金です。修学意欲がありながら経済的な理由によって修学を続けることが困難な最終学年の学生に対し、月額2万円を給付します。平成27年度は、大学4人、短大部2人、専門学校6人が奨学生となりました。

日本学生支援機構

奨学金の種類と貸与月額（平成 27 年度）

種類	区分	貸与月額		
		自宅通学	自宅外通学	
奨学金 第一種	大学部	30,000 円 54,000 円	30,000 円 64,000 円	
	短期大学部	30,000 円 53,000 円	30,000 円 60,000 円	
	大学院	修士	50,000 円 88,000 円	
		博士	80,000 円 122,000 円	

奨学金 第二種	大学部・短期大学部	3 万円・5 万円・8 万円・10 万円・12 万円
	大学院	5 万円・8 万円・10 万円・13 万円・15 万円

“第一種奨学金”は無利子。“第二種奨学金”は有利子。

貸与月額は上記から奨学生が選択。

入学時特別増額貸与奨学金については、ホームページ等でご確認のこと。

ホームページ <http://www.jasso.go.jp/> Tel. 0570-03-7240(ナビダイヤル・全国共通)

その他の奨学金

地方自治体や各種団体なども奨学金制度を設けています。貸与額や条件はそれぞれに異なります。詳細は出身地の都道府県・市区町村の教育委員会・各団体に問い合わせてください。

香川綾奨励賞

自らの可能性を高く大きく伸ばし、つねに自分自身を向上させようと努力し、大きな成果をあげている学生を表彰し、奨励することを目的に設立されました。

対象者は、学業成績が優秀で課外活動や学内行事、ボランティア活動にも積極的に参加している学生です。教職員推薦、香川綾奨励賞運営委員会による選考を経て、理事長が決定します。なお、平成 27 年度は、大学・大学院 18 人、短大部 3 人、専門学校 2 人が受賞しました。

受賞者には賞状・楯のほか、金一封が授与されました。

修士課程特別奨学生制度

大学院入学試験および学部成績が極めて優秀な者に対し、栄養学・保健学各専攻それぞれ入学時に 2 人以内（合計 4 人以内）に入学金および授業料の全額を免除とします。

大学院入学生奨励「浅野嘉久賞」奨学金

学部成績が優秀でかつ卒業研究に熱心に取り組んでいて、大学院入学試験の成績が優秀な者（修士課程特別奨学生になった者を除く）に対し、栄養学・保健学各専攻それぞれ入学時に 1 人（合計 2 人）に、1 年次に 30 万円、2 年次に 30 万円を給付しています。

修士課程長期履修学生制度

職業を有している等の事情により、標準修業年限の 2 年で修了することが困難と認められる者に対し、修士課程を 3 年間で計画的に教育課程を履修し、修士の学位取得を可能にすることができる制度です。修士課程の 2 年分の学納金の総額を、3 年間で納入します。

大学院修学休業制度

現職教員が大学院に在学し、専修免許状を取得するために、教育公務員特例法等の一部を改正する法律（平成 12 年 4 月 28 日第 52 号）により、創設されたものです。平成 13 年 4 月 1 日から実施されています。国公立学校の教員（教諭、養護教諭、栄養教諭及び講師）で、一種免許状または特別免許状を持つ者が、任命権者の許可を受けて、大学院で 1 年を単位とし 3 年を越えない期間で、研修を行うために休業することができる制度です。

就職支援

希望通りの職業まで万全のナビゲートをしています。

本学の就職状況の一番の特徴は、きわめて高い就職率を安定して保っていることです。公務員（教員や地方自治体の栄養士など）、病院・福祉関係施設など、資格免許を活かした専門職への就職は、景気や社会動向の影響を比較的受けにくいのがその理由です。また、近年食品企業を中心とした一般企業への就職者も多く、将来への選択肢がますます増えています。学生がこのメリットを最大限に活かせるよう、本学では万全の就職活動支援プログラムを用意し、個別に丁寧な支援を徹底しています。尚、平成 27 年度の実施事業として以下ご紹介し

学内企業セミナーの充実と拡大

就職課においては、採用担当者と学生が接することが出来る学内での業界・企業セミナーの開催には特に力を入れています。

平成 27 年度においては 100 社を超える企業・団体様に協力頂き学内でセミナーを開催し、多くの学生が参加し進路選択の一助として活用されました。

その結果、3 月 31 日現在で前年度を 0.9% 上回る 97.45% の学生が就職先を決定し十分にその役割を果たしたと言えます。

就職活動スケジュール変更による対応強化

平成 27 年度は、企業を中心とする採用活動開始時期が 3 年生の 3 月からとなり、就職活動を行う学生にとって大きな不安要素となりました。

その為、早期から就職課では就職活動の支援対策を行い、きめ細かなフォローや 4 年生向けガイダンスを実施するなど、年間を通じて学生支援を行ってきました。

特に面接選考対策には力を入れ、専門職員による模擬面接を適宜実施するなど従来以上に手厚く、短期決戦をも想定した対応を強化してきました。

1、2 年生の職業意識の醸成

従来の 3、4 年生を対象とするガイダンスや就職イベントを低学年の学生にもアナウンスを行い、積極的に参加を呼びかけてきました。特に地方出身者で地元就職を希望する学生向けの新たな試みとして「就活 U ターンフォーラム」を一昨年度から開催し、平成 27 年度は地方出身の卒業生講師を招きパネルディスカッションを行ったほか、自治体関係の U ターン支援団体のガイダンスも実施し、早期からのキャリアに対する意識付けを促していきました。

来年度以降も同様の講座やイベントを強化していきます。

卒業後のフォローアップ体制

年間 300 件程の経験者を対象とする求人が届き、必要な手続きを経た後に、転職や再就職を希望する卒業生に公開しています。管理栄養士、臨床検査技師や家庭科、養護教諭など資格職での求人も多く、一般的な転職支援会社が紹介するものとは一線を画し、本学卒業生にとって有益な情報源となっています。

求人は窓口にて公開のほか、大学 HP から閲覧可能となっており利便性にも配慮しています。また、卒業後も対面での相談はもちろん、電話やメールによる転職相談も多く、在学生との区別なく、大学と卒業生との末永い関わりを大切にしています。

その他の取り組み

インターンシップ制度

栄養学の専門的知識だけでなく、広い視野、実践力、経験を身につけて学生が社会に飛び立てるよう、夏期休暇などを利用して、企業などに赴き、実際の仕事を体験。自分の適性を見極めながら、社会人としての心構えや企業が求める人材像などを学ぶことができます。

尚、平成 28 年 3 月卒業予定者より、就職活動時期が 3 ヶ月後ろ倒しとなった関係上、学生に対する早期アピールの機会としてインターンシップを実施する企業が増えています。通常 1~2 週間程度ですが、一日だけのワンデイインターンシップなど形態は様々です。

本学でも参加者数は、前年に比べ大幅に増えており、当部署においても社会の流れに即応できる体制を築いていきます。

住居の紹介

自宅外通学をする学生のために、通学の便を考えた近隣アパート等住居の紹介を行なっています。

充実の IT 環境

全学生に e-mail アドレス (eiyo アドレス) を貸与しています。授業のレポートや先生への質問、また就職情報などにも活用しています。

また、学内情報掲示配信システム (i-Compass) を導入しており、休講や求人情報等も携帯電話やパソコン等で確認することができます。

(9) 主な教学関係事業の概況

栄養学部

全国栄養士養成施設協会認定の「栄養士実力試験」の平成 27 年度結果は、栄養学部実践栄養学科は 22 人受験、A 認定 19 人 (86%)、B 認定 3 人 (14%)。保健栄養学科栄養科学専攻は 102 人受験、A 認定 91 人 (89%)、B 認定 11 人 (11%) でした。

平均点は実践栄養学科 50.0 点、栄養科学専攻 51.8 点、全国平均 43.2 点を上回りました。

「フレッシュマンキャンプ」は、授業の一環として 1 年生全員参加で実施されます。

実践栄養学科は 4 月 16 日(木) 本学坂戸キャンパスでフレッシュマンアドベンチャーツアーとして、保健栄養学科栄養科学専攻は 9 月 11 日(金) 本学坂戸キャンパスで、保健養護専攻は 9 月 10 日(木) 本学坂戸キャンパスで、食文化栄養学科は 4 月 16 日(木) 茨城県ポティロンの森において学科専攻別に実施しました。

平成 28 年度栄養学部入学生を対象に以下の「フォローアッププログラム」を実施しました。

- ・早期入試区分 (推薦入試・AO 入試) の入学予定者を対象に、平成 27 年 12 月 12 日(土) 「入学前学習セミナー」(入学前学習課題のすすめ方) を開催し、実践栄養学科 168 人・保健栄養学科栄養科学専攻 71 人・保健栄養学科保健養護専攻 48 人・食文化栄養学科 60 人、計 347 人 (欠席 13 人) が参加しました。また、同日保護者向けセミナーを実施したところ、約 210 人の参加がありました。
- ・上記入学予定者の希望者を対象に「入学前学習セミナー(化学)」を平成 27 年 12 月 13 日(日)に実施したところ、261 人が参加しました。
- ・入学予定者を対象に、入学前課題「化学」、「生物(一步一步学ぶ生命科学)」及び読書レポート課題を配布。化学の入学前課題の答案を採点し、本人に結果を送付。生物については、Web システムで実施しました。
- ・入学予定者を対象に、入学前課題「化学」の得点により学習が必要な学生のみを対象とした少人数制の基礎コース 2 クラスを設け、平成 28 年 3 月 28 日(月)に「化学短期集中セミナー」を実施したところ、109 人が参加しました。
- ・入学後、4 月のオリエンテーション期間中に化学及び生物の「理解度確認テスト」を実施し、化学のテスト成績下位対象に「フォローアップ講座」を実施。生物のテスト成績下位対象者の補習は Web で実施します。

大学院

平成 27 年 4 月 1 日付で改正される学校教育法及び学校教育法施行規則に合わせ、学則の改正を行いました。

本学大学院と国立保健医療科学院との人材育成及び研究協力に関する協定に基づき、平成 27 年度は、国立保健医療科学院の専門課程の選科生として、大学院生 2 人が受講しました。

平成 29 年度開設に向けて栄養教諭専修免許状の教職課程認定申請を、平成 28 年 3 月 23 日に文部科学省へ提出しました。

平成 28 年 4 月入学者については、平成 27 年 10 月に実施した修士課程第 1 期入学試験において、入学試験および学部成績の両方とも優秀な 3 人を修士課程特別奨学生として選出しました。平成 27 年度より開始した大学院入学生奨励「浅野嘉久賞」奨学金は、2 人に給付を行いました。

平成 27 年度は、長期履修学生制度を利用して 6 人の社会人学生が在籍しました。
平成 27 年 6 月 17 日（水）に在学生向けの大学院説明会を実施したところ、参加者は 42 人でした。

短期大学部

教育の充実に係わる支援

年度当初に新入学生へのフォローとして苦手克服タイム、サポートコーナーを実施し、在学生を含め履修相談を取組むことで、学生の学習支援を強化しました。

入学前の化学・数学「基礎学力アップ講座」では、アフターテストによるクラス分けを行い、成績の芳しくない学生は「食物栄養学特論（基礎化学）」履修させ、入学前の国語テストで一定基準に達することができなかった学生は「食物栄養学特論（国語）」を 2 クラス開講し必ず受講するよう履修指導を行いました。

加えて、平成 27 年度からは入学前学習にアカデミックライティングとして国語を導入し、基礎力の向上を図っています。

平成 26 年度私立学校等改革総合支援事業採択のデモンストレーション用モニターシステムにより、調理操作の細部について繰り返し画像を確認させることで学生の理解不足を補い、収録した画像を e-ラーニングコンテンツとして予習・復習に有効活用し教育向上をめざしています。

1 年次当初に実施する PROG 試験でのリテラシーとコンピテンシーの結果説明会では自分を把握することができ、2 年次の秋に実施する PROG テスト結果により、1 年間半の学生生活の中で自分がどれだけ培われてきたかの成果を把握することができ、これまでの他大学の評価との比較だけではなく、本学としての学習効果を測ることができましたが、更に実施する事で教育および学生生活指導に活用できます。

学生生活支援について

学生が学内で自学自習できる環境を整備し、学内滞在時間を増やし学習意欲を増加するように指導することができましたが、学部二部の授業があるため試験前の十分な教室確保は難しい状況です。なお、その他学生生活に関する支援として、学生間の問題を含め学生から相談依頼時に教職員で対応しています。

学生サポート体制の充実

精神的な支援を必要とする学生をサポートするために、教職員の連携を密に行い情報の共有をはかるとともにカウンセラーの相談日を増やし、対応しました。

精神的な支援を必要とする学生が増えカウンセラーからのアドバイスにより教務学生課窓口での学生対応を実施しています。精神科の医師との相談が必要な学生に対し平成 28 年度より臨床心理士の資格を所持する精神科医師に対応していただけることになりました。

就職活動の支援について

学内企業説明会を 3 回実施した結果、参加企業の受託給食会社、高齢者施設を中心に学生が就職するなど実際的な就職活動に役立つ機会となりました。また、従来の卒業生対象求人情報提供をはじめ、キャリアコースの学生を主な対象とした講座「職歴のある方・転職者対象の就職支援ガイダンス」を実施するなど在学生・卒業生に対し幅広いキャリア支援を行いました。

栄養学部二部

平成 28 年度を持ちまして、1 年次入学生の受入を終了いたしました。平成 31 年度をもって本学部は閉鎖となりますが、本学の「教育の理念」「教育目標」を踏まえ基礎となる栄養学を学ぶ教育を引き続き実施しております。現在も e-Learning システムを活用し授業資料、自習課題、補習課題等をシステムに載せ、学生が勉強しやすい環境作りを進めております。また平成 28 年度より e ポートフォリオシステムにより、各学生自身が教育目標を立て、各自の目標に向かって勉学できる仕組みを立ち上げました。

専門学校

生徒指導強化・保護者関係強化

指導体制・出席管理・レポート管理など教育面でこれまで以上に強化・充実を行い、保護者との信頼関係の強化を実施しました。また、就職率の上昇と退学率の低下をはかることができました。

調理師科 定員増申請

調理師科定員超過が続いており法令遵守のため、調理師科の定員を 40 人増員し、80 人から 120 人への増員申請を行い、平成 27 年 9 月に認可を得ることができました。

職業実践専門課程申請

平成 25 年度から新設された、文部科学大臣が認定する「職業実践専門課程」の認定申請を行い、平成 28 年 2 月に認可を得ることができました。

生徒募集

調理師科定員増が認可され、調理マイスター科 40 人×2 学年、調理師科 120 人、製菓科 120 人で収容定員は 320 人となりました。平成 28 年 4 月の在籍生は 325 人と収容定員を上回る生徒数の確保はできました。しかし調理マイスター科の定員 40 人を満たすことができず今後の課題となっています。

就職実績

職業人養成施設として、就職の実績は最重要課題と認識している。校外実習・インターンシップ・企業見学・企業説明会などの就職活動指導と面接指導を強化し、大手企業への就職実績を向上させ、広報活動につなげるよう努めている。今年は帝国ホテルへの就職実績を得ることができ、就職率もアップすることができました。

補助金獲得

私立専修学校教育環境整備費補助金の平成 26 年度申請金額は 111 万円でした。平成 27 年度は 200 万円を目標としましたが、補助金の制度が変更となり、20 万円となりました。

以上

国家試験合格状況

第 30 回管理栄養士国家試験（3 月 20 日実施）は、栄養学部実践栄養学科（新卒）受験者 230 人、合格者 225 人で合格率 97.8%でした。全国の受験者数は 19,086 人、合格者数は 8,538 人で合格率は 44.7%でした。

第 62 回臨床検査技師国家試験（2 月 24 日実施）は、栄養学部保健栄養学科（新卒）受験者 35 人、合格者 31 人で合格率は 88.6%でした。全国では、受験者 4,400 人、合格者 3,363 人で合格率 76.4%でした。

(10) 研究の概況

科学研究費採択状況

文部科学省・日本学術振興会が交付を行う科学研究費助成事業の新規採択は、大学 1 件、研究所 1 件でした。これにより受け入れた研究費は継続（7 件）を含めて、直接経費 12,940,000 円、間接経費 3,882,000 円でした。

平成 27 年度科学研究費の一覧は以下のとおりです。

平成 27 (2015) 年度 科学研究費助成事業・科学研究費・

種目	課題名	所属	職位	研究代表者氏名	備考
基盤研究 (C)	学校におけるアレルギーに関連するヒヤリ・ハット事例の解明と未然防止策の提案	栄養学部	准教授	大沼 久美子	新規
若手研究 (B)	女性の身体不満を誘発する要因についての包括的検証 -日本・マレーシアの比較から-	研究所	准教授	香川 雅春	新規
基盤研究 (C)	児童生徒の身体的健康課題についての養護診断開発に関する研究	栄養学部	教授	遠藤 伸子	継続
基盤研究 (C)	n-3系脂肪酸の摂取は乳幼児の成長と発達に寄与するか?・疫学による検証	栄養学部	教授	川端 輝江	継続
基盤研究 (C)	高校生対象の「体重の旅・人生健康ゲーム」によるICTを活用した遠隔交流型食育実践	栄養学部	准教授	藤倉 純子	継続
基盤研究 (C)	音楽教育による市民の形成と社会的結合の創出・日仏比較を通して	栄養学部	准教授	水崎 富美	継続
基盤研究 (C)	食習慣改善効果の検証 中学生を対象とした食育プログラムの実施	短期大学部	教授	岩間 範子	継続
基盤研究 (B)	<性>に関する教育の内容構成・教育課程とジェンダー平等意識・セクシュアリティ形成	栄養学部	教授	橋本 紀子	継続
基盤研究 (C)	ベジタリアンの脂肪酸不飽和化酵素遺伝子多型による脂質栄養の解析	栄養学部	教授	香川 靖雄	継続

3. 当該年度のその他の事業の概要

平成 27 年度の教育・研究促進事業募金（綾栄会募金）総額は 29,062,940 円（個人 16,902,940 円・法人 12,160,000 円）となりました。

学校法人全体の点検・評価を恒常的に実施するため、自己点検・評価委員会を設置しており、大学、短期大学部、専門学校ごとに毎年、点検・評価を行っています。

平成 27 年度も点検・評価を行い、結果を学園 Web サイトに掲載しています。

平成 26 年度に短期大学部が、一般財団法人短期大学基準協会の第三者評価を受審し同協会が定める基準を満たしていると認定されましたが、平成 27 年度に大学が公益財団法人日本高等教育評価機構において 2 巡目の機関別認証評価を受審し、同機構が定める大学評価基準を満たしていると認定されました。認定期間は平成 27 年 4 月 1 日から平成 34 年 3 月 31 日です。

今後も自己点検・評価を続け、改革・改善に尽力し、建学の精神に則った教育研究に邁進します。

職務権限等の見直し

職務権限等が分かりにくくなっている役職者呼称について、「資格」と「職位」という概念で平

成 26 年度中に整理を行い、平成 27 年 4 月 1 日から実施しました。平成 27 年度内に職務権限の整理も試み事務部長会で提起も行ったが十分合意を得ることが出来ず、見直しを行うまでには至りませんでした。

事務組織の整備

平成 27 年 4 月 1 日からそれまでの部・担当制から部・課制へ切り替えるとともに、継続して事務組織の見直しを計画し、調整も行ったが当初の目標を達成することはできませんでした。ただし、教育施設である大学農園の所管を、総務部から平成 27 年 4 月に新設した教育支援部教育支援課に平成 28 年 4 月 1 日付で移管することとしました。

適正な人員構成

平成 26 年度に事務職員として採用内定を出していた 3 人は、平成 27 年 4 月 1 日付で予定通り着任した。平成 27 年度においても平成 28 年 4 月採用者の公募を行い、当初の計画通り 3 人の卒業・修了予定者に内定を出すことができました。また、1 人の既卒者の採用を行うことができ、計画通り年齢構成の是正を図ることができました。

新規職員採用体制の構築

職員の採用については、客観的な透明性を確保するために新卒者の採用に当たっては公募を原則とし、本学園として適切な人材を確保できる採用体制の構築をめざし、平成 27 年度においても平成 28 年 3 月採用予定者について公募を行いました。これにより、2 年間事務職員採用に当たって公募を実施することができ、公募体制が定着しつつあります。

職員の能力開発 (SD)

SD 研修については、「新入職員研修」及び「研究者倫理に関する研修」は実施することができましたが、その他の SD 研修は実施することができませんでした。また、SD 研修規程及び SD 委員会について検討を行ったが制定までには至らなかった。メンタルヘルスセミナーについては、メンタルヘルスチェックの実施時期との関係で、平成 28 年度に開催する計画に変更しました。

学長室

- ・学校教育法の一部改正に伴い、大学院・大学・短期大学の学則をはじめ学務関係規程の整備を行い、学長によるガバナンスの明確化を図りました。また、学長の適切な意思決定・権限行使を援けるため学長室会議を設置し、学長を中心とした全学的な教学マネジメント体制を構築しました。
- ・専門学校調理師科の定員増 (80 人 120 人) の申請を行いました。
- ・栄養学部二部の募集停止の届出を行った。なお、その入学定員 20 人を平成 29 年度より食文化栄養学科に、編入学定員のうち 5 人を平成 31 年度より保健栄養学科保健養護専攻に振り替える方向で準備中しています。

平成 11 年発足の「香川綾記念講師派遣事業」は主として高校生対象の出張講義への派遣としてスタートしました。現在は、その依頼先・内容も多様化し、高校への派遣が全体の 2/3、その他が 1/3 強の比率となっています。平成 27 年度は、各都市の教育委員会や学校関連団体、地方自治体の保健・健康・医療・福祉関係部署からの派遣要請が増加しました。その結果、平成 27 年度の総派遣件数は 388 件、受講者の総数は約 2 万 900 人を数えました。

新聞、雑誌、メディアの対応件数も増加しています。学園関連、教員、卒業生等によるメディアへの露出は、月平均 30 件程です。さらに、各種イベントの後援、共催や参加により、女子栄養大学の取り組みを広く知らせております。

学園ホームページについては、ニュースの更新はもとより、リニューアル、スマートフォン対策も進めるとともに、各付帯事業、出版部との協力他、Facebook の公開による身近な情報提供等も行っております。

学園誌『香窓』は、在学生の保護者へ学園の動きを報告するための学園連絡誌として、昭和 56 年 7 月から年 2 回 (夏・冬) 定期発行し、平成 15 年夏・45 号から学園広報課が担当しています。本誌は在学生の保護者への送付に加え、卒業生・非常勤講師、通信教育受講生に対しても送付しており、平成 27 年度の送付数は夏・69 号が 32,106 件、冬・70 号が 32,796 件でした。このほかオープンキャンパス等のイベントなどでの配布を加えて、平成 27 年度の制作部数は夏・69 号 35,000 部、冬・70 号 35,800 部でした。

募集の後方支援として社会人対象の夜間説明会を実施し、学部二部・短大キャリアコース・専門学校の募集力の支援をしました(7~3月に8回実施)。その他首都圏の高校800校余を訪問。さらに認知を深めるため、スポーツ栄養セミナーを7会場(甲府、高松、福井、札幌、横浜、仙台、坂戸)で実施しました。

国立科学博物館「大学パートナーシップ」(20年度入会)に継続入会し、学生の学習支援の一助としています。

校歌CDを制作(平成18年1月初版)し、入学生約1000人に配付しました。

本学園を卒業し、「料理教室」を主宰・運営されている方々に対し、その社会的活動を奨励・支援することを目的に「料理教室」の認定制度があり、平成27年度までに29件の認定校が誕生しました。

文部科学大臣認定の「平成26年度教員免許状更新講習」を8月5日(火)~9日(土)の日程で実施し、実人数242人が受講しました。

情報・ネットワーク

・iパークのサービス充実

開館カレンダーの開示方法について、従来の「紙媒体の掲示+PDFファイルのホームページへの掲載」という形態から「紙媒体の掲示+Googleカレンダーへの掲載」という形態に変更しました。学生がスマートフォンのカレンダーを通してiパークの開館スケジュールを閲覧できるようになり、利便性が大幅に向上しました。空席情報については、5分ごとの空き台数をiパークのホームページ(学内LANからのみアクセス可能)に掲載しています。

・キャンパス間ネットワークの増強

坂戸・駒込間のネットワークについて、従来の10Mbpsから1Gbpsへと増強しました。単位時間あたりのデータ転送能力は100倍となり、学内LANに於けるボトルネックは解消されました。また、月額コストも現行回線比で約36%の削減を果たしました。

・学生証ICカード化

ICカードの適用範囲の再検討のため、導入時期を1年延期いたします(平成28年度中の導入)

・ソフトウェア環境の充実

ライセンスの申請フォームをサーバ上に用意し、申請方法及びインストール手順について、メール、教職員向けHP、iパークHPへの掲載・展示物を使用して通知しました。その結果、利用者数の増加へとつながりました。

・基幹業務システム移行

平成27年12月より順次新システムへの移行を開始し、平成28年度中には全てのシステムが移行を終えます。Webによる履修登録など、新たなサービスも稼働を予定しています。

・PC仮想化(デスクトップ仮想化)の検証

仮想デスクトップの実機による検証を終えました。全学のパソコンを仮想環境に移行するには大きな初期コストが発生するため、特定の用途に限定した適用(例えば古いWindows以外では動作しないアプリケーションを使用するための環境維持など)が適切であるとの結論に至りました。

・インターネット接続回線の増強

インターネット接続回線について、従来の主10Mbps+副100Mbps(二重化)から主1Gbps+副100Mbps(二重化)へと増強しました。主回線の単位時間あたりのデータ転送能力は100倍となり、学外からのe-Learningシステムの利用(特に動画コンテンツの閲覧)も快適に行

図書館

・電子ジャーナル・オンラインデータベースの提供、研究図書、専門図書の充実により、学術情報の整備を図りました。

・抄録・引用文献データベース「Scopus」の学内講習会を坂戸・駒込両キャンパスで実施しました。また、電子ジャーナル「ScienceDirect」と「ProQuest」、ならびに「Scopus」のオンライン講習会を学内に案内し、教職員・大学院生の参加がありました。

- ・教育・研究支援として、以下の事項を行いました。
 - 授業用参考図書の設定。
 - 読書教育の一環として、学生に本や読書への興味を促す目的で学生選書ツアーや施設見学ツアー（大学）を実施。
 - 所蔵資料の企画展示を行い、資料の紹介と利用促進。
 - 本学の特色ある専門授業や講義を OCW(Open Course Ware)に追加、公開。
- ・「女子栄養大学機関リポジトリ」(本学研究成果等を公開する電子的形態で集積、保有、公開するための電子アーカイブシステム)のコンテンツとして、博士論文(学位論文)、西洋古版本、ならびに女子栄養大学紀要・女子栄養大学栄養科学研究所年報・教育学研究室紀要:「教育とジェンダー」の最新号を公開しました。
- ・「栄養と料理デジタルアーカイブス」に平成3年分を追加しました。別冊付録2冊についてもデジタル化を行いました。
- ・図書館内無線 LAN の利用を広報し、館内貸出用ノート PC の利用促進を行い、図書館の活性化を図りました。

栄養科学研究所

- ・研究所講演会

栄養科学研究所では年に一度講演会を開催しています。これは、社会に対して最新の栄養学の知見を広め、現場の栄養士・管理栄養士や一般の方向けに学びの場を提供することを目的としており、平成27年度は11月21日(土)に駒込校舎で開催しました。第25回目の節目となった講演会は森谷敏夫先生(京都大学大学院)、松下隆哉先生(東京医科大学八王子医療センター)、そして天川淑宏先生(東京医科大学八王子医療センター)の3名を講師に迎え、「フレイル予防のための食事と運動」のテーマで開催しました。
- ・栄養科学研究所の活動と業績を社会に発信することを目的とし、客員研究員の募集および客員所員(客員教授)、名誉客員研究員・所員に対する審査より多くの研究者による活発な研究活動を通して、客員研究員の募集を行いました。平成27年度は35人に対して新規または継続して客員研究員として委嘱しました。また金田雅代元短期大学部教授を栄養科学研究所の客員教授として招聘しました。
- ・栄養科学研究所研究助成の公募および審査と配分

栄養科学研究所が学内の研究を促進・奨励するために基金を設けて提供している栄養科学研究所研究助成に対して研究演題を募集し、栄養科学研究所の部長会議で審査の上採択された研究に対して助成額を決定しました。平成27年度は総額250万の助成金に対して8件の申請があり、7件が採択されました。
- ・学外からの各種研究助成金の受け入れ

本研究所の賛助会員である企業からの支援金のほか、委託研究や共同研究から企業や団体から研究費の受け入れを行った。平成27年度は学術研究寄付金で2,160,000円、委託事業収入で63,414,531円など合計82,811,013円の外部収入を学園にもたらしました。
- ・国際組織との連携強化

学園の国際連携の強化を目的として、栄養科学研究所は APACPH (Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health) との連携を分掌しています。平成27年度も APACPH との連携業務を実施すると同時にインドネシアで開催された総会・学術大会には栄養科学研究所の香川靖雄所長が出席しました。また、5月には APACPH で交流があるインドネシアの研究者および学生の一団とマレーシア国民大学の研究チームが本学を訪問し、学内の施設見学や香川靖雄女子栄養大学栄養科学研究所長および香川雅春副所長による講義、本学大学院生を交えた国際シンポジウムを開催しました。

上記に加え、マレーシア国民大学とオーストラリアのクイーンズランド工科大学から学生の研究研修先としての要望があり、国際交流課の支援の元マレーシアの大学院生とオーストラリアの学部生が栄養科学研究所に約3週間滞在し、香川雅春副所長の指導を受けました。さらに、香川副所長は本学が学術提携を結んでいるタイのマヒドン大学の大学院生に対しても指導を行いました。

・学内外に向けた情報発信の促進

平成 28 年度に向けた女子栄養大学栄養科学研究所年報の発行準備を進めるとともに、発行されている年報に掲載されている論文等の機関リポジトリへの掲載作業を進めました。同時に、栄養科学研究所の HP を介して学内外に対して専任および兼任所員、また客員研究員らの活動や研究助成金の獲得実績などの情報発信を充実させました。平成 27 年度の栄養科学研究所 HP へのアクセス数は平均して 2,459 カウントであり、平成 26 年度と比べて微減したが、HP を更新した 2011 年と比べ約 2 倍のアクセス数を維持しました。また、専任および兼任所員による国内外での講演や学会発表を通して最新の研究の知見を発信するとともに、所属先として「栄養科学研究所」と明記することで本研究所の知名度を高めました。

4. 特長ある取り組みの概要

(1) 社会貢献・連携活動の概要

官学連携（地域連携）

荒川区

平成 18 年度より取り組みを始めた「あらかわ満点メニュー」は現在、約 70 店舗が参加しています。さらに、参加店舗からも積極的なメニュー提案が出てくるなど、実績をあげています。

豊島区

平成 19 年に同区と区内 6 大学との連携協力を結びました。以降、教育機能の向上並びに豊かな地域社会の創造をめざし、区民向けの各種講座等開講しています。本学においても平成 27 年度、4 講座を開講、好評を得ています。

秋田県と平成 20 年に協定を締結しました。秋田県の食材を使用した郷土料理実習(1/21)や、「食で創るスポーツ選手育成事業」への協力により、高校生アスリート（県立秋田工業高校ラグビー部他）の栄養面をサポートしています。

福井県と平成 22 年に協定を締結しました。学内においては、福井県産食材を使用した「福井ランチ」を 10 月に実施しました。福井県では、県主催の「第 9 回全国高校生食育王選手権大会」の審査員長を小川久恵名誉教授が務めました。また、8 月 11 日（火）に福井県スポーツ保健課との共催で、「スポーツ栄養セミナー」を開催しました（場所：福井県立大学、参加者：360 人）。

坂戸市・市内 3 大学と平成 18 年協定を締結しました。11 月 5 日（木）に葉酸プロジェクト推進事業として「葉酸普及講演会」へ講師を派遣しました（講師：香川靖雄副学長・坂本香織助教）。

越生町と平成 24 年協定を締結しました。食文化栄養学科学生が梅農家とコラボ、梅を使った菓子を開発し、実習の一環として、梅の収穫・販売・商品開発までを学びました。

鶴ヶ島市と平成 25 年 5 月協定を締結しました。10 月 31 日（土）に鶴ヶ島市地域合同防災訓練ボランティアへ保健養護専攻 3 年生 2 人が参加しました。

嬬恋村と平成 25 年 7 月協定を締結しました。嬬恋ランチの開催（7～10 月）やキャベツの無料配布を実施し、「つまごい祭り」では、学生 5 人が出展協力しました。その際に、キャベツを使用した「塩焼きそば」「キーマカレー」を販売しました。

香川県と平成 25 年 11 月協定を締結しました。入学式に、伝統菓子「和三盆」を新入生に配布しました。12 月には「香川県ランチ」を実施し、初日に「らりるれレタス」を無料配布しました。

富士見市と平成 26 年 2 月協定を締結しました。市内菓子店で販売する地元農産物を使用した創作和菓子の開発に協力しました。また『ピアザ ふじみ』において、「女子栄大食堂 cooking 教室」を開催しました（講師：宮田料理長）。10 月 25 日（日）に実施した富士見ふるさと祭りでは、地域食材を使用したお菓子をプランタンが開発、出店をしました。

神川町と平成 27 年 1 月協定を締結しました。「梨を使った簡単料理レシピコンテスト」（審査員：西村早苗 准教）が開催され、本校生徒（2 位）・短大部学生（3 位）が入賞しました。

鳩山町と平成 27 年 2 月協定を締結しました。締結に伴い、鳩山町「食」コミュニティ会議プロジェクト事業、「はとっ子給食レシピ」事業、「はとっ子料理教室」事業、巡回健康教室、メタボ予防教室などへ講師を派遣しました。

白岡市と平成 28 年 1 月協定を締結しました。「売れる商品づくりに関する講演会（3/16）」へ協力しました（講師：高城孝助教授）

その他、川島町・毛呂山町・ときがわ町・東京都北区・沖縄県久米島町とも包括連携協定等を締結しています。

産学連携

生活協同組合連合会コープネット事業連合

平成 27 年 6 月 産学連携包括協力に関する協定を締結しました。「健康」をテーマとしたお弁当・お惣菜商品の開発とあわせて、会員生協での活動や食育コミュニケーションでの社会的発信の強化を目的としています。

本学監修の健康弁当「からだ健やかシリーズ」とお惣菜「選んで健やかシリーズ」を販売し、売行きも好調でした。

また、コープネットの主催するコープみらいフェスタ（平成 27 年 11 月 3 日 埼玉スーパーアリーナにて開催）や「たべる、たいせつ」シンポジウム（平成 28 年 1 月 30 日 ベルサール八重洲にて開催）等、食育イベントへの大学ブース出展などの取組も行っている。

キリン株式会社

平成 27 年 7 月 産学連携包括協力に関する協定を締結しました。

相互の情報や知見に基づいた啓発活動プランや大学院との共同研究テーマを定めるなど、「食を通じた健康寿命の延伸」につながる活動を展開し、人々の生活の質の向上と健康を支える社会環境の質の向上を目指します。

キリンの開発するスマートフォン用アプリへの学食メニューのレシピデータ提供や商品開発の係わる監修・学内でのキリン商品の取り扱い等も取り進めている。

株式会社ウエルフェア

平成 27 年 7 月 メニュー開発に関する協定を締結しました。

埼玉医科大学、株式会社ウエルフェア、本学との三者による連携協力に関する協定の締結に基づき、埼玉医科大学総合医療センター（埼玉県川越市）管理棟の新設に伴い、同棟 1 階にオープンする同社が運営するレストラン「健康レストラン鴨田」において本学がメニュー提供及び技術指導を行っている。

カネテツデリカフーズ株式会社

JR 新大阪駅内に平成 27 年 12 月オープンした同社が運営する練りモノ専門ショップ「ネルサイユ宮殿」にて本学学生との共同開発商品を販売しました。

ニチモウフーズ株式会社

スーパー西友にて大学レシピ監修の 1 人用鍋 6 種を販売しました。

株式会社 ぎゅーとら

三重県内を中心に展開するスーパー「ぎゅーとら」にて短期大学部監修のヘルシー弁当を販売しました。

西洋フード・コンパスグループ株式会社

同社の運営する企業等の食堂施設において大学監修のメニューを提供しました。

トモエ乳業株式会社

同社の製造、販売する乳飲料（ロコモミルク）を監修しました。

株式会社 三盛

高齢者向けの配食サービスに関し、献立についての指導・助言等の監修及びメニューの共同開発を行いました。

株式会社 クリタエイムデリカ

同社の製造、販売する麺類商品をメニュー開発しました。

株式会社 東急百貨店

産学連携包括協力に関する協定を締結している同社とは、渋谷本店でのマジパン教室の実施やレストラン街での「栄養と料理」とのコラボメニュー提供等継続した取組を実施しました。

プレッツェルジャパン株式会社

同社の製造、販売するプレッツェルを食文化栄養学科学生が商品開発しました。

株式会社 サンドラック

同社の運営するコンビニエンスストア「サンドラック CVS」にて大学監修のお弁当を販売しました。

ひかり味噌株式会社

同社の製造、販売する減塩味噌汁・減塩スープを栄養クリニックが監修しました。

株式会社 三越伊勢丹

同社発売のおせち「からだにやさしいおせち」を栄養クリニックが監修しました。

産学連携包括協力に関する協定を締結している株式会社ベルク、株式会社イオンとは継続してお弁当の開発・販売を行い、ハウスウェルネスフーズ株式会社とは「葉酸米」の販売にて継続した取組を実施しました。

教育機関等との連携

東京都教職員研修センター

平成 28 年 1 月 連携による研修実施に関する協定を締結しました。

大学の高度な学術情報や最新の指導理論、優れた施設・設備等の提供により、都内公立学校教員の指導力向上を目的としています。

高大連携

7 月 24 日(金)に埼玉県内の家庭・福祉・看護を担当する高校教員対象「実践的職業教育グローバル事業「サービス力育成分野・教員向け講座」の開催協力をしました。

埼玉県内の専門高校による学習発表会「産業教育フェア」にブース出展、同「アイデア弁当コンテスト」の審査員として協力、学長賞を提供しました。

連携校は、新たに 5 校(埼玉県立常盤・児玉・私立秋草学園・都立武蔵村山高等学校・私立京華女子中学・高等学校)と協定を締結(計 39 校)。連携校とはテーブルマナーや講師派遣による出張講義などを実施しています。

大学公開講座として、6 月 1 日(日)に若葉祭公開講座(受講者 169 人)、10 月 11 日(土)・18 日(土)・25 日(土)に「現代人と食生活」と題する秋の大学公開講座(申込者 464 人)を実施しました。また、彩の国大学コンソーシアム公開講座に参画し、9 月 13 日(土)実施の本学担当回では 92 人が受講しました。

地域連携の一環として、彩の国いきがい大学の「若い世代との交流」授業を 11 月 27 日(木)に受け入れ、いきがい大学生 127 人と本学学生 89 人(高城孝助教授「食品開発・マーケティング論」履修者)が参加しました。

(2) 生涯学習

「栄養と料理講座」の受講申込者数は 1,052 人(平成 26 年度 1,279 人)、修了者数 652 人、優秀修了者表彰式で 6 人が文部科学大臣賞を受賞しました。

「チャレンジ!家庭料理検定-基礎編-」講座の受講申込者数は 71 人、修了者数は 30 人でした。

DVD を主教材とした「管理栄養士国家試験合格支援講座」の受講申込者数は 63 人、修了者数 5 人でした。

「食生活指導士」は通信教育修了生、女子栄養大学(食文化栄養学科、保健養護専攻、栄養学部二部)・女子栄養大学短期大学部在学・卒業生で取得条件をクリアした人が取得できる本学独自の資格で、制度を設けてから 6 年が経過しました。資格取得者数は、「食生活指導士二級」が 322 人(認定者合計 2,352 人)、「食生活指導士一級」が 204 人(認定者合計

1,543人)でした。また、「食生活指導士一級」取得者のうち、156人(通算1,164人)が本学学生の取得者でした。

「食生活指導士」資格取得者対象に「スキルアップ講座」を2回開講し、参加者は212人でした。

社会通信教育協会認定資格生涯学習インストラクター申請者は1級1人(取得者合計188人)2級31人(取得者合計2,004人)でした。

公開講座等受講者数は「夏期スクーリング」174人、「月例スクーリング」461人、「第36回栄養学講座(エキスパートスクエア2015)」145人、「料検合格対策講座」3・4級50人、1・2級140人、「料検直前対策講座」22人、「技を磨く」42人でした。

管理栄養士オープン模試受験者数は、第1回目は1,260人(内訳:通信1,095人、会場65人)で、第2回目は1,865人(内訳:通信1,707人、会場158人)でした。

女子栄養大学生涯学習講師認定者は10人(認定者合計340人)でした。

料理教室(日本料理406人、パンコース288人)参加者の延べ人数は694人、こども料理教室参加者の延べ人数は499人でした。

家庭料理技能検定1級から4級を全国88会場で実施しました。志願者は3,602人、うち本学学生1,233人(平成25年度は3,646人、うち本学学生1,248人)、成績優秀者表彰式では各級1人、計4人3団体が文部科学大臣賞を受賞しました。

家庭料理技能検定の第三者評価施行調査を受け、それに関連した規定等の整備、守秘義務の文書を取り交わし、実施会場の調査等をまとめました。

ホームページに掲載の「検定試験の自己評価シート」を更新しました。

テキスト(7冊)を作成しました。

「栄養学」,「日本料理」,「料理の基本」,「日常食の料理」,「よい食事の計画」,「栄養と料理基本カード」,「家庭料理技能検定過去問題集2016」。

家庭料理技能検定1級から4級を全国75会場で実施しました。志願者は、3528人、うち本学学生1,260人(平成26年度は3,602人、うち本学学生1,233人)成績優秀者表彰式では各級1人、計4人3団体が文部科学大臣賞を受賞しました。

平成29年度の家家庭料理技能検定の改革案を運営委員会に諮問し、改革を実行することが決定しました。これにより以下の改革が実行される予定となりました。

主な改革(案)

5級と準1級を新設します。

5級と4級は筆記試験のみで合否判定します。(レベルを小学生~中学生とします)

3級~1級は、一次試験(筆記)の合格者のみが二次試験(実技)を受験できます。

5級・3級・3級は年間2回実施します。

審査基準、出題数、出題形式、検定料などが変更になります。

(3) 国際交流の概要

1. 国際交流センター学生・生徒海外研修プロジェクト企画 学生・生徒海外研修旅行の実施〔夏期〕

オーストラリア英語研修

実施期間:平成27年8月8日~8月30日 研修地:パース 参加者:大学14人

オーストラリア栄養学研修

実施期間:平成27年8月8日~8月23日 研修地:パース 参加者:大学25人

〔春期〕

オーストラリア栄養学研修

実施期間:平成28年3月12日~3月27日 研修地:パース 参加者:短大16人

2. 海外実習・留学サポート

〔夏期〕

専門学校主催パース留学(パース事務所によるサポート)

実施期間：平成 27 年 7 月 4 日～8 月 2 日 研修地：パース 参加者：専門学校 9 名
食文化栄養学科 3 年生前期集中授業（危機管理サポート対応）
国際食活動フィールドワーク実習（ベトナム研修）
実施期間：平成 27 年 8 月 22 日～8 月 29 日 研修地：ハノイ、ホーチミン
参加者：大学 11 人

〔春期〕

専門学校主催中国・料理文化研修旅行（危機管理サポート対応）
実施期間：平成 28 年 3 月 7 日～3 月 10 日 研修地：台北、高雄
参加者：専門学校 10 人、大学 4 人

3. 海外からの来訪・受入れ

インドネシアからの団体訪問（受入れ担当：香川靖雄副学長、香川雅春准教授）
来学者：Hasanuddin University 22 人、Airlangga University 5 人、
省庁から 2 人

実施日：平成 27 年 5 月 18 日（月）

目的：施設見学および香川靖雄副学長による講義

マレーシアからの訪問（受入れ担当：香川雅春准教授）

来学者：マレーシア国民大学 4 人

実施者：平成 27 年 5 月 19 日（火）12:00-17:00

目的：施設見学およびシンポジウム開催

オーストラリアからの学生受入れ（受入れ担当：香川雅春准教授）

学生氏名：Kaitlin Brennan（ケイトリン・ブレナン）クイーンズランド工科大学 4 年
生

滞在期間：平成 27 年 5 月 16 日（土）-6 月 6 日（土）

マレーシアからの学生受入れ（受入れ担当：香川雅春准教授）

学生氏名：Ang Yeow Nyin（アン・ヨウニン）マレーシア国民大学大学院（博士課程）

滞在期間：平成 27 年 5 月 18 日（月）-6 月 12 日（金）

4. 教員の海外派遣

国際会議出席（国際交流センター学術交流補助〔渡航費補助〕を受けたもの）

出張者：香川雅春准教授（栄養科学研究所）

出張期間：平成 27 年 8 月 30 日（日）～9 月 5 日（土）

出張先：オーストラリア・ブリスベン

出張目的：The 9th International Conference on Diet and Activity Methods にお
ける口頭発表

女子栄養大学アカデミック・オフィス（パース）出張滞在

出張者：牧久恵准教授

出張期間：平成 27 年 10 月 18 日（日）～平成 28 年 1 月 31 日（日）

出張目的：西オーストラリア大学における植物の環境ストレスに対する防御反応につ
いての研究など

海外の大学との提携に関する出張

出張者：磯田厚子国際交流センター長

出張期間：平成 27 年 11 月 19 日（木）～11 月 20 日（金）

出張目的：ソウル国立大学校生活科学大学との提携に関する意見交換

（4）付帯事業部の概要

松柏軒

- ・前年より売り上げが増加しましたが、今まで以上の企画等の見直しを継続的に行っていま
す。新企画を何点が実施したが検討する事案があり次年度は企画を練り直し執り行います。
- ・レストランにおいて、飲料類（酒類も含む）の価格改定を 4 月より行いました。
- ・5 月中旬より 7 月中旬まで調理師科生徒の営業調理実習を受け入れました。

- ・カフェテリアでは、サービスデーや四季を通じてのイベント数を増やし学生の来客数増に向けて実施しました。
- ・官学連携、産学連携について
レストランにおいて通年継続している、北区ふれあい食事会、豊島区食彩いきいきサロンを本年度も実施しました。その結果、160人のご高齢の方に対して食事及び栄養クリニックのサポートによる栄養指導を行いました。また、北区在住の親子を対象にしたテーブルマナー、埼玉県富士見市健康増進センターでクッキング教室を行い、次年度も行う予定となりました。さらに、埼玉国際マラソンでのランナーに提供するカステラの開発をしました。
カフェテリアでも通年継続している、福井県、香川県、孺恋村の食材を使いランチフェアを行いました。また、DNP、埼玉医科大学((株)ウエルフェア)、ベルク等の企業へのレシピ提供も通年継続して行っています。
- ・事業開拓について
レストランにおいて、教育施設(保育園、幼稚園、専門学校、短期大学、大学等)のテーブルマナーや懐石作法を通年より多く実施しました。今後の事業開拓につながるよう内容を検討し執り行います。また、その他の教育施設、学会、協会等の営業も増加しており、新しい事業開拓を行います。
- ・衛生管理について
レストラン、カフェテリア共、各マニュアルを通し各担当者が責任を持ち衛生管理を徹底と執り行いました。衛生管理委員会からの施設視察での指摘も少なくなり衛生管理に対する意識向上が見えるようになりました。また、個々の体調をミーティング等で確認する機会を多く取り入れ、意識の改善や向上につながりました。

ブランタン

- ・平成 25 年度から、26 年度で売上 100 万円程度増収しました。しかし、食材費などの高騰もあり、製品の価格の見直しなど検討を行います。
- ・新規のギフトを始め、ラッピングの見直しをしました。
- ・食品開発実習(9月、2月) 西塔先生担当
* 栄養学部実践栄養学科生 4 人による「ヒトエグサを使用したパンの開発」9月
* 保健栄養学科 4 名による「ホエイたんぱく質を使ったデザートの開発」2月
- ・近隣地域との連携
7月・9月 中学生の職場体験実習
7月15日~17日 立正中学校職場体験 2年生 男子2人 女子1人
9月16日~18日 駒込中学校 2年生 女子2人
6~9月 聖学院高等学校学食、イベントにスコーンを提供
9月 駒込妙技神社の祭礼(子供みこしに協力)お菓子を提供した
10月 滝野川会館イベント参加 販売
11月 駒込生活福祉作業所イベント参加 販売
- ・(株)クインビーガーデン「はつみつ、メープルシロップを使用したパン・菓子製作」
製品開発して、製品を購入していただき、販促に使用しました。
- ・(株)AGF「コーヒーを使用したパン製作」
商品開発、購入しました。米粉倶楽部における米粉を使用したイベント開催して製品購入しました。
- ・香川県のフルーツと希少糖を使用した製品作り
4月に香川県産イチゴ(さぬき姫)を使用した生菓子・パン販売をしました。12月には香川県産キウイを使用した生菓子・パン販売をしました。通年では希少糖を使用したスコーンを販売しました。
- ・季節感ある新製品を開発し販売しました。具体的には、ハロウィン、クリスマス、バレンタイン製品などが挙げられます。
- ・サムシングでのブランタン製品の販売を終了しました。

- ・香友会会員にて、ポイントの倍増 総会での販売参加。香流会での商品提供など
- ・製造スタッフ加藤が「ジャパンケーキショー」にて入賞しました。
- ・地域におけるイベント参加

日にち	イベント	売上(円)
5月31日、6月1日	若葉祭	¥360,090-(¥256,040-)
6月28日	香友会の総会参加	¥116,400-(¥73,000-)
10月17日	滝野川会館コムコムフェスタ参加	¥26940-(¥46,496-)
10月24日	富士見市ふるさと祭り参加	¥95,220-(¥53,540-)
10月30日、31日	駒込祭	¥95,500-(¥1,012,400-)
11月3日	みらいコープイベント	¥49,170-
11月7日	駒込福祉作業所イベント	¥33,859-(¥33,859-)
11月	渋谷東急百貨店イベント	¥82,000-
2月	丸広百貨店イベント	¥27,373-
2月24日、25日	全調協食育フェスタ参加	¥81,360-(¥116,660-)
3月10日	学位授与式イベント	¥197,450-

()は今年の売上

(5)事業本部の概要

代理部 (販売担当)

- ・学生サービスを基本とした提携事業は、既存の7社に加え、新たに鶴ヶ島自動車教習所とヤマトホームコンビニエンス株式会社(引越サービス)の2社と提携しました。その結果、提携事業収入は、約800万円で前年比約108%となりました。その要因として、大学・短大部の保護者会会報誌“ブーケ”vol.4に学生や職員の家族まで利用でき、同様のサービスが受けられる引越サービス(ヤマトホームコンビニエンス株式会社)開始のお知らせをし、利用者が増えたことも今年度の利益増の一因となりました。
- ・店頭では、学園の紹介も兼ねて『女子栄養大学クリニック監修のおみそ汁やスープ』の販売を開始いたしました。店頭売上は、学用品費を含め約1億8300万円で前年比約100%となりました。

出版部

- ・27年度は『栄養と料理』創刊80周年を中心に動いた年で、『栄養と料理』の認知度を上げることに注力しました。しかし、雑誌の売上には直結しませんでした。今回の反省点を活かし、今後の雑誌売上増加へとつなげていきます。
- ・今後3年間の中間計画を立てました。書籍は食品成分表の大幅改訂に伴う関連書籍の改訂に着手、マーケティングは新たなクライアント獲得に伴うイベント以外の業務拡大を図っています。営業は学校等を中心とする販路拡大に着手し、平成28年度の販売増を目標としています。
- ・学園のご協力もあり、『グルメガイド』(香流会)、『求人案内』(大学、短大教務)等の冊子の制作を請け負いました。今後はビジネスとして成立させていくことを目標とします。

【編集課(雑誌)】

- ・80周年イベントとして、東急百貨店でトークイベントを実施しました。また、マーケティング課と共同でコラボメニューの提供にも協力しました。
- ・埼玉県庁の「ランナーのための栄養学」冊子作成を請け負いました。
- ・編集長の広報活動として、東京栄養疫学勉強会やかぼすヒラメ組合等で講演、インスタントラーメンコンテスト審査員、魚食普及会議委員等を務めました。ツイッターでの情報発信にも取り組んでいます。

【編集課(書籍)】

- ・文科省より「日本食品標準成分表2015年版(七訂)」が新たに発表されるにあたり、事前の情報収集に力を入れ、平成28年度の新学期用の教科書採用に支障の出ないよう『七訂食品成分表2016』の刊行を目指し、年度内刊行を遂行しました。

- ・ 80 周年にあたり、昨年度から立ち上げた新シリーズ「食事療法はじめの一步シリーズ」「がん研有明病院がんに向きあう食事シリーズ」の充実を図りました。
- ・ 編集長の活動として、文部科学省「日本食品標準成分表改訂に伴う食品成分データベースでのデータ公開のための国内外データベースの調査」に技術審査専門員として参加するなど、文科省資源室とのパイプ作りに努めました。

【営業】

- ・ 月刊誌『栄養と料理』の創刊 80 周年にあたり、取次大手の協力を仰ぎ書店店頭での拡販を図りました。
- ・ 『栄養と料理』の電子版を大学図書館等で販売開始しました。
- ・ 病院コンビニ等書店以外の販路拡大を図りました。

【マーケティング課】

『栄養と料理』の広告については苦戦をしておりますが、記事広告の作成やセミナーとの抱き合わせ等工夫し企業に提案、広告を獲得しました。新規クライアントの獲得が課題となっています。

書籍ならびに小冊子制作、コンテンツ提供など業務の幅をさらに積極的に拡大しました。

- ・ 明治、食肉消費総合センターなどの冊子、書籍を制作しました。コンテンツ協力としては JST（国立研究開発法人 科学技術振興機構）や企業の HP 等に提供しました。
- ・ 凸版印刷関連会社の 2017 年度の手帳、カレンダー等の制作を協力しました。

イベントや料理・商品開発の新規の拡充に努めています。

- ・ 80 周年記念イベント（埼玉ウーマンズフェスタ・東急コラボ企画等を行いました）
- ・ アレルギー関連のセミナーやコンテストの企画・運営を行いました。その他企業関連のセミナー企画運営協力など約年間 30 回を実施しました。

平成 28 年度は新しい業務として動画制作の企画・制作等業務の幅を広げる予定です。

III. 財務の概要

平成 27 年度決算の概要を、資金収支計算書、事業活動収支計算書および貸借対照表に基づき、それぞれの主な内容について説明します。

1 資金収支計算書

単位：千円(未満切捨)

【収入の部】			
科 目	当 年 度	前 年 度	差 異
学生生徒等納付金収入	4,821,664	4,819,690	1,974
手数料収入	71,671	76,080	4,408
寄付金収入	31,037	38,315	7,277
補助金収入	297,565	278,048	19,516
資産売却収入	620,200	1,474,400	854,200
付随事業・収益事業収入	461,018	458,496	2,522
受取利息・配当金収入	294,175	352,766	58,591
雑収入	49,263	56,998	7,735
借入金等収入	300,000	300,000	0
前受金収入	2,558,781	2,539,752	19,028
その他の収入	359,165	59,052	300,112
資金収入調整勘定	2,589,629	2,560,278	29,351
前年度繰越支払資金	7,503,570	7,511,465	7,895
収入の部合計	14,778,484	15,404,789	626,305
【支出の部】			
科 目	当 年 度	前 年 度	差 異
人件費支出	2,998,631	3,191,556	192,924
教育研究経費支出	1,164,822	1,161,774	3,047
管理経費支出	718,998	712,569	6,428
借入金等利息支出	12,447	14,239	1,792
借入金等返済支出	420,860	399,860	21,000
施設関係支出	257,395	283,691	26,295
設備関係支出	168,256	486,750	318,494
資産運用支出	900,358	1,839,641	939,282
その他の支出	190,587	110,811	79,776
資金支出調整勘定	72,105	299,676	227,571
翌年度繰越支払資金	8,018,231	7,503,570	514,660
支出の部合計	14,778,484	15,404,789	626,305

【収入の部】

学生生徒等納付金収入

授業料、入学金、実験実習料、施設維持費などが主なものです。

手数料収入

入学検定料、試験料、証明手数料などが主なものです。

寄付金収入

金銭その他の資産を贈与されたもので、用途指定のある特別寄付金と用途指定のない一般寄付金があります。

補助金収入

国庫補助金と地方公共団体補助金からなります。

付随事業・収益事業収入

補助活動収入、附属事業収入、受託事業収入および収益事業収入からなります。

なお、収益事業収入は事業活動収支計算書では教育活動外収支の「その他の教育活動収入」になります。

受取利息・配当金収入

資産運用などによる受取利息や配当金収入からなります。

雑収入

上記以外の学校法人に帰属する収入で、施設設備利用料などが主なものです。

前受金収入

翌年度入学の学生に係る学生生徒等納付金収入などで、当年度に納入されたものです。

【支出の部】

人件費支出

教員や職員の人件費、役員報酬、退職金などが主なものです。

教育研究経費支出

教育研究のために支出した経費です。

管理経費支出

教育研究経費支出以外の経費支出で、主に総務、管理、経理の業務や学生生徒募集のために支出した経費です。

借入金等利息支出

日本私立学校振興・共済事業団からの長期借入金利息と銀行からの（短期）借入金の利息です。

施設関係支出

土地、建物、構築物などを取得するための支出です。

設備関係支出

学校法人が使用する教育研究機器備品や図書、車両、ソフトウェアなどを取得するための支出です。

2 事業活動収支計算書

単位：千円(未満切捨)

	科 目	当 年 度	前 年 度	差 異
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	4,821,664	4,819,690	1,974
	手数料	71,671	76,080	4,408
	寄付金	31,037	38,757	7,720
	経常費等補助金	297,565	278,048	19,516
	付随事業収入	438,018	438,496	477
	雑収入	49,263	56,998	7,735
	教育活動収入計	5,709,221	5,708,072	1,148
事業活動支出の部	科 目	当 年 度	前 年 度	差 異
	人件費	2,988,349	3,108,032	119,682
	教育研究経費	1,637,698	1,622,497	15,200
	管理経費	839,286	793,582	45,704
	徴収不能額等	1,047	2,508	3,556

		教育活動支出計	5,464,287	5,526,620	62,333	
		教育活動収支差額	244,934	181,452	63,482	
教育活動外収支	事業活動収入の部	科 目	当 年 度	前 年 度	差 異	
		受取利息・配当金	294,175	352,766	58,591	
		その他の教育活動外収入	23,000	20,000	3,000	
		教育活動外収入計	317,175	372,766	55,591	
	事業活動支出の部	科 目	当 年 度	前 年 度	差 異	
		借入金等利息	12,447	14,239	1,792	
		その他の教育活動外支出	0	0	0	
		教育活動外支出計	12,447	14,239	1,792	
			教育活動外収支差額	304,728	358,527	53,798
			経常収支差額	549,663	539,979	9,683
特別収支	の部 事業活動収入	科 目	当 年 度	前 年 度	差 異	
		資産売却差額	37,512	0	37,512	
		その他の特別収入	0	0	0	
		特別収入計	37,512	0	37,512	
	の部 事業活動支出	科 目	当 年 度	前 年 度	差 異	
		資産処分差額	43,448	23,488	19,959	
		その他の特別支出	0	0	0	
		特別支出計	43,448	23,488	19,959	
		特別収支差額	5,936	23,488	17,552	
		基本金組入前当年度収支差額	543,726	516,490	27,236	
		基本金組入額合計	480,915	272,049	208,865	
		当年度収支差額	62,811	244,440	181,629	
		前年度繰越収支差額	303,832	59,391	244,440	
		基本金取崩額	0	0	0	
		翌年度繰越収支差額	366,644	303,832	62,811	
		(参考)				
		事業活動収入計	6,063,909	6,080,839	16,930	
		事業活動支出計	5,520,182	5,564,349	44,166	

平成 27 年度より消費収支計算書は事業活動収支計算書と名称変更し、その構成が「教育活動収支」「教育活動外収支」(両者合計が「経常収支」)および「特別収支」に分類されました。以下、主に資金収支計算書との差分について説明します。

「教育活動収支」

教育活動収支は、経常的な収支のうち、本業である教育活動に係る収支の状況を示しています。

人件費

資金収支計算書との差分は主に退職給与引当金繰入額です。

教育研究経費

資金収支計算書との差分は主に減価償却費です。

管理経費

資金収支計算書との差分は主に減価償却費です。

徴収不能額等

徴収不能引当金繰入額と徴収不能額からなります。徴収不能引当金とは、未収入金のうち、将来徴収不能となるおそれのあるものについて、一定の方法によって見積もり引当計上されるものです。徴収不能引当金繰入額は前年度分の戻入額と当年度の繰入額との差額となります。

「教育活動外収支」

教育活動外収支は、経常的な収支のうち、財務活動に係る収支の状況を示しています。

「経常収支」

事業活動を行う上で経常的な収支の状況を示すものです。

経常収支差額は教育活動収支差額と教育活動外収支差額の合計です。

「特別収支」

資産売却や処分などといった臨時的に発生した取引に係る収支の状況を示しています。

資産売却差額

土地や建物などの固定資産を売却した際、売却額が帳簿価額を超えた場合に発生した差額を収入として計上するものです。

資産処分差額

土地や建物などの固定資産を売却した際、帳簿価額以下で売却した場合に発生した差額で支出として計上するものです。

「基本金組入前当年度収支差額」

基本金組入前当年度収支差額

経常収支差額と特別収支差額を合計したもので、当該年度の収支の状況を示しています。

「基本金組入額」

基本金組入額合計

基本金組入額の内訳は、以下の様になっています。

第1号基本金（土地・建物など固定資産取得価額）	383,915千円
第2号基本金（固定資産を取得目的として留保した資産）	147,000千円
第2号基本金から第1号基本金への振替	50,000千円

3 貸借対照表

単位：千円（未満切捨）

【資産の部】			
科目	当年度末	前年度末	増 減
固定資産	19,705,298	19,679,776	25,522
有形固定資産	12,909,020	13,180,104	271,084
特定資産	6,546,313	6,295,969	250,344
その他の固定資産	249,964	203,701	46,262
流動資産	10,373,875	10,040,711	333,163
資産部合計	30,079,174	29,720,488	358,685
【負債の部】			
科目	当年度末	前年度末	増 減
固定負債	2,753,907	2,940,886	186,979
流動負債	2,889,995	2,888,056	1,938
負債の部合計	5,643,902	5,828,943	185,040
【純資産の部】			
科目	当年度末	前年度末	増 減
基本金	24,068,627	23,587,712	480,915
繰越収支差額	366,644	303,832	62,811
純資産の部合計	24,435,271	23,891,545	543,726
負債及び純資産の部合計	30,079,174	29,720,488	358,685

【資産の部】

固定資産の増加は、主に坂戸 6 号館の増築、教育研究用機器の購入、基幹システム代金の一部支払によるものです。なお当年度の減価償却費は 595,514 千円で減価償却額累計は 10,434,350 千円になります。流動資産の増加の主なものは支出の減少に伴う現預金の増加です。

【負債の部】

固定負債の減少は主に日本私立学校振興・共済事業団からの借入金の返済によるものです。

【純資産の部】

純資産の部合計の増加は基本金の組入（詳細は事業活動収支計算書の「基本金組入額合計」にて説明）と翌年度への繰越収支差額によるものです。なお、翌年度への繰越収支差額は事業活動収支計算書の「翌年度繰越収支差額」になります。

IV. 財務比率

分類	区 分			26年度	27年度	
	比 率	算 式				
貸借対照表関係比率	1	固定資産構成比率	固定資産 総資産		66.2	65.5
	2	有形固定資産構成比率	有形固定資産 総資産		44.3	42.9
	3	特定資産構成比率	特定資産 総資産		21.2	21.8
	4	流動資産構成比率	流動資産 総資産		33.8	34.5
	5	固定負債構成比率	固定負債 負債 + 純資産		9.9	9.2
	6	流動負債構成比率	流動負債 負債 + 純資産		9.7	9.6
	7	内部留保資産比率	運用資産 - 総負債 総資産		34.6	36.6
	8	運用資産余裕比率	運用資産 - 外部負債 事業活動支出		270.1	284.1
	9	純資産構成比率	純資産 負債 + 純資産		80.4	81.2
	10	繰越収支差額構成比率	繰越収支差額 負債 + 純資産		1.0	1.2
	11	固定比率	固定資産 純資産		82.4	80.6
	12	固定長期適合率	固定資産 純資産 + 固定負債		73.3	72.5
	13	流動比率	流動資産 流動負債		347.7	359.0
	14	総負債比率	総負債 総資産		19.6	18.8
	15	負債比率	総負債 純資産		24.4	23.1
	16	前受金保有率	現金預金 前受金		295.4	313.3
	17	退職給与引当特定資産保有率	退職給与引当特定資産 退職給与引当金		100.1	100.2
	18	基本金比率	基本金 基本金要組入額		95.6	96.3
	19	減価償却費率	減価償却累計額(図書を除く) 減価償却資産取得価額(図書を除く)		54.9	56.5
	20	積立率	運用資産 要積立額		119.4	119.8
事業活動収支計算書関係比率	1	人件費比率	人件費 経常収入		51.1	49.6
	2	人件費依存率	人件費 学生生徒等納付金		64.5	62.0
	3	教育研究経費比率	教育研究経費 経常収入		26.7	27.2
	4	管理経費比率	管理経費 経常収入		13.1	13.9
	5	借入金等利息比率	借入金等利息 経常収入		0.2	0.2
	6	事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額 事業活動収入		8.5	9.0
	7	基本金組入後収支比率	事業活動支出 事業活動収入 - 基本金組入額		95.4	98.9
	8	学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 経常収入		79.3	80.0
	9-1	寄付金比率	寄付金 事業活動収入		0.6	0.5
	9-2	経常寄付金比率	教育活動収支の寄付金 経常収入		0.6	0.5
	10-1	補助金比率	補助金 事業活動収入		4.6	4.9
	10-2	経常補助金比率	教育活動収支の寄付金 経常収入		0.6	0.5
	11	基本金組入率	基本金組入額 事業活動収入		4.5	7.9
	12	減価償却額比率	減価償却額 経常収入		8.8	9.9
13	経常収支差額比率	経常収支差額 経常収入		8.9	9.1	
14	教育活動収支差額比率	教育活動収支差額 教育活動収入		3.2	4.3	